わたしたちのまち

大正区

一級河川
尻無川
尻無川水門

はじめに

この「わたしたちのまち大正区」は、小学生のみなさんに、大正区のまちの様子や、移り変わりを知ってもらうとともに、大正区に住んでいる多くの人たちにも、わたしたちのまち「大正区」について、理解を深め、愛着をもってほしいという願いをこめて作りました。

「大正区」は大阪市の南西部にあり、木津川と尻無川に囲まれています。昔の大正区のあたりは、大阪湾に小さな島がいっぱいあったところでした。江戸時代から新田が開発され、明治時代から大正時代にかけても埋め立てが行われました。そして、大正時代の終わりごろに、ほぼ現在のような区域になりました。

区としては、明治30年（1897年）に大阪市に編入された時の西区から、大正14年（1925年）の港区の時代を経て、昭和7年（1932年）10月1日に「大正区」が生まれました。

木津川と尻無川は、江戸時代には大阪の経済を支える大動脈として日本中から来る船でにぎわいました。また、明治時代以降、紡績工場や造船所などが次々と建てられ、阪神工業地帯の中心的な地域として発展しました。

時代とともに「大正区」の工業や商業などの産業の様子は変わってきていますが、土地区画整理事業などが進み、道路などの基盤が整いました。区の中心部には標高33メートルの昭和山を囲む形で緑豊かな千島公園があり、この公園内には「せせらぎ」が造られるとともに、体育館や多目的グラウンドなどのスポーツ施設が整備されています。また隣接して文化交流プラザやスポーツセンター・屋内プールなどの複合施設も整えられています。区内にはさらに高齢者や障害をのある人たちのための施設など「ひとにやさしい」まちづくりの整備も進んでいます。

大正区のすがたなどをこの本から知っていただき、わたしたちのまち「大正区」に、より一層の親しみをもってもらえたらありがたいです。

もくじ　わたしたちのまち大正区

1. わたしたちの大正区

(1) 大正区の位置 …… 6
(2) 大正区のすがた …… 7
(3) 大正区にあるしせつ …… 9
(4) 大正区の交通 …… 13
　(4)-1 道路と自動車 …… 14
　(4)-2 バスと電車 …… 15
　(4)-3 橋と渡船 …… 17
　　大正区にかかる橋 …… 19
　　大正区にある渡船場 …… 20

2. まちの人々のくらしと仕事

(1) 商店街のようす …… 21
　(1)-1 見学に行こう …… 23
(2) 大正区の工業 …… 24
　(2)-1 見学に行こう …… 25

区のあらまし

◆位　置　市の南西部に位置し、大阪湾に面して、区の三方を木津川、尻無川、岩崎運河に囲まれています。

◆面　積　9.43平方キロメートル（平成14年10月1日　国土地理院発表）

◆人　口　73,204人（平成17年10月1日　国勢調査）

◆区の花　『つつじ』

昭和62年（1987年）の第13回区民まつりで、区の花『つつじ』が制定されました。制定にあたって区民へ募集し、『つつじ』が区のシンボルともいえる昭和山一帯に咲くことから、選定されました。

大正区の歴史

1. 大正区のおいたち

(1) 大正区の昔の風景 …… 28
(2) 地域の発展につくした人々 …… 29
(3) 土地利用の移り変わり …… 31
　(3)-1 江戸時代の土地活用 …… 31
　(3)-2 明治時代の土地活用 …… 33
　(3)-3 戦後の港の整備と土地活用 …… 35
(4) 写真で見るあのころの大正区
　(4)-1 東洋のマンチェスターと呼ばれていたころ …… 37
　(4)-2 大阪俘虜収容所のこと …… 38
　(4)-3 大正時代の造船所 …… 39
　(4)-4 貯木場のあったころ …… 40
　(4)-5 飛行場のあったところ …… 41
　(4)-6 大正時代から昭和時代の臨海工業地帯 …… 42
(5) 戦争と災害 …… 44
　(5)-1 第二次世界大戦のころ …… 44
　(5)-2 台風の被害 …… 46
　「大正区水防団」 …… 48

2. くらしの移り変わり

(1) 人々のくらしの移り変わり …… 49
(2) まちなみの様子の移り変わり …… 51
(3) 大正区の小学校の移り変わり …… 53

3. これからの大正区のまちづくり

(1) ゆめのあるまちづくり …… 55
(2) 楽しみあるまち …… 55
(3) もっと知りたい大正区 …… 56

大正区カラー地図 …… 57
大正区白地図 …… 58
大正区年表 …… 59

キャラクターしょうかい わたしたちといっしょに、「大正区」のことを知りましょう。

たいちさん

しょうこさん

大山さん

正田さん

わたしたちのまち大正区

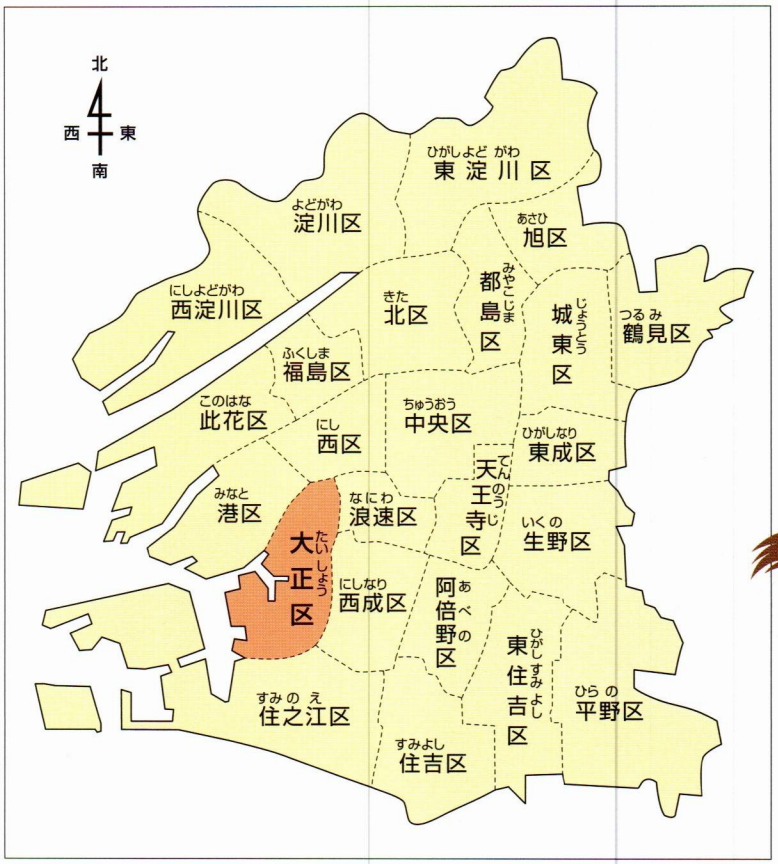
↑人工衛星からとった写真

© Product/Geoscience Agency/ARTBANK

1 わたしたちの大正区

(1) 大正区の位置

大正区は、大阪府のどのあたりにあるのでしょう。左の人工衛星からとった写真を見てみましょう。白の線でかこまれた部分が大阪市、黄色の線でかこまれた部分が大正区です。



大阪市の区

大阪府には33市9町1村があります。わたしたちの住んでいる大阪市には24の区があります。大正区は、大阪市の南西部に位置しています。大阪市の面せきは、大正区の面せきのおよそ24倍あります。地図でかくにんしてみましょう。

大正区は５つの区と、海にかこまれているのね。

調べてみよう

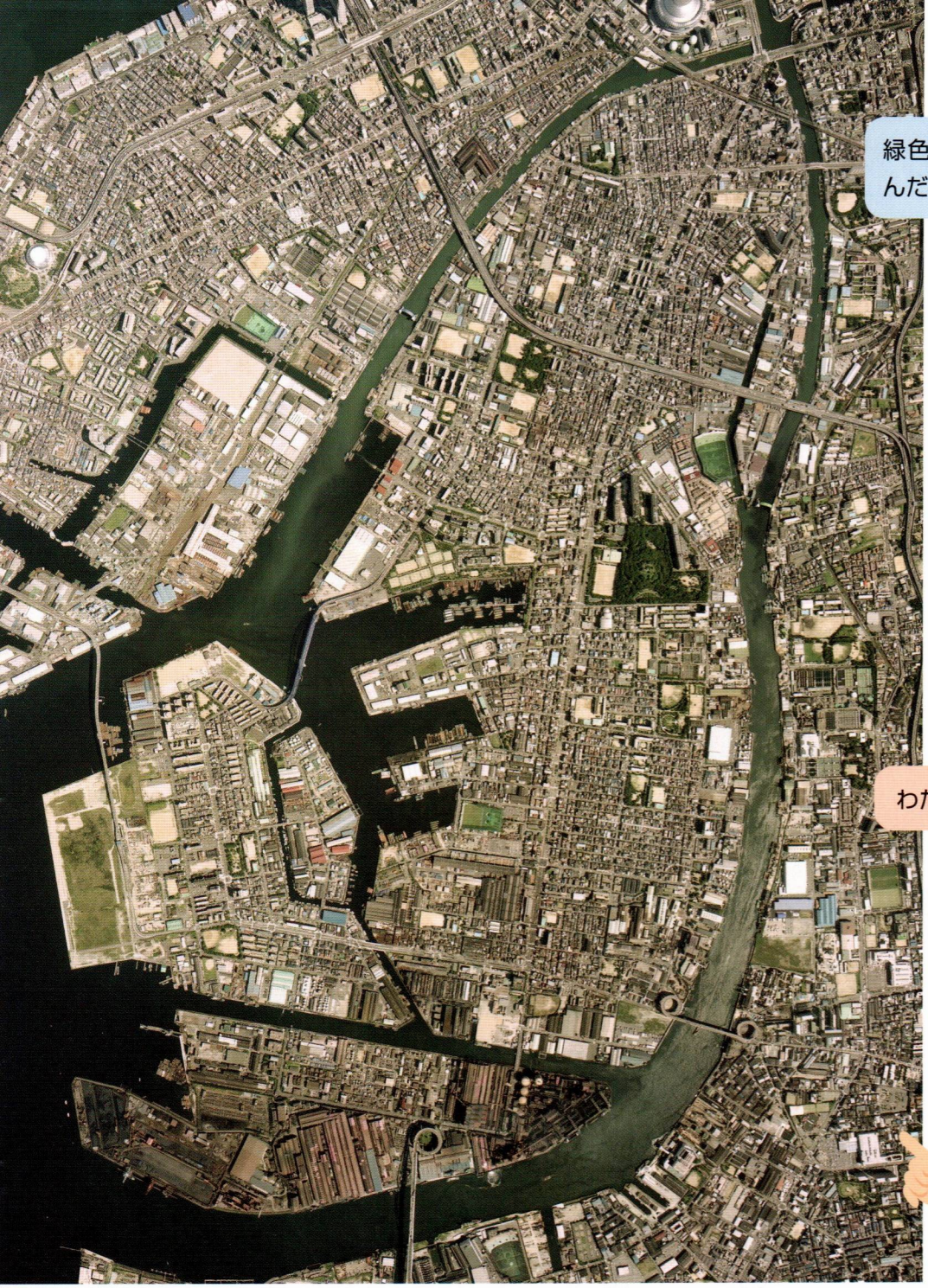
大正区のほかに、知っている区の名前はありますか。上の地図で位置を調べてみましょう。

おばあさんは旭区に住んでいるよ。大阪市の北東にあるんだね。

買い物は中央区にあるお店に行くこともあります。大阪市の中心にあるわ。

ものしりメモ

大正区の面せきは、9.43平方キロメートルです。大阪市で９番目に広い面せきです。（平成14年10月1日国土地理院発表）



↑ 空から見た大正区

(2) 大正区のすがた

上の写真は空から見た大正区のようすです。２本の大きな川にかこまれた島のような形をしていますね。大きな道路も見えます。さん橋や船が止まっている岸べき、めがねのような橋は見えましたか。みなさんの学校や家はどこにあるかわかるかな。

さがしてみよう

いつも見ている風けいも、空から見るとちがいますね。
次のたて物やしせつの位置(いち)をさがしてみましょう。

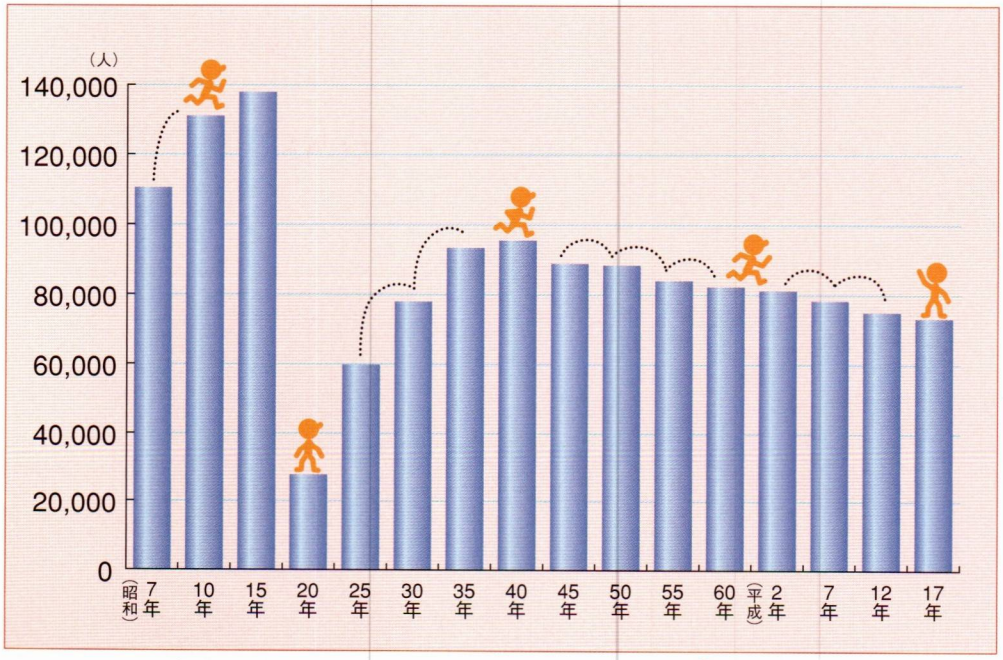
- 大正区役所
- JR(ジェイアール)大正駅
- 昭和山
- 大正通
- 千歳(ちとせ)橋

大正区は、木津川、尻無川という２本の大きな川にかこまれています。まちの中央を南北に大正通が走り、国道43号線とよばれる大きな道路が東西に走っています。北西には港区、北には西区、東には浪速区と西成区、南から西には住之江区の５つの区があります。

電車の駅は北にあるんだね。そこからのびている道路が大正通なんだ。

大正区には何人の人が住んでいるのでしょうか。大正区の人口は、およそ７万3000人です。（平成17年国勢調査）

下のグラフは大正区の人口のうつりかわりを表したものです。



大正区の人口のうつりかわり

ものしりメモ

10歳から14歳の人数は、男子が1553人、女子が1515人です。（大正区ホームページより）（平成18年９月末現在）

(3) 大正区にあるしせつ

大正区には、みんなのくらしにべんりなしせつがあります。どんなところがあるのでしょう。行ったことがあるしせつはありますか。何をするためのしせつか知っていますか。

大正区立体地図

ものしりメモ

平成(へいせい)18年11月に大正区コミュニティセンターの「大正区立体地図」が、泉尾(いずお)工業高等学校ファッション工学科のみなさんによってリニューアルされました。

大正区役所　千島2－7－95

大正区コミュニティセンター
（大正図書館／1階）　千島2－6－15

大正けいさつしょ　小林東3－4－21

大正ゆうびん局　三軒家東（さんげんや）4－3－22

大正消ぼうしょ　小林東3－5－17

かんきょう事業局大正工場　南恩加島（みなみおかじま）1－11－24

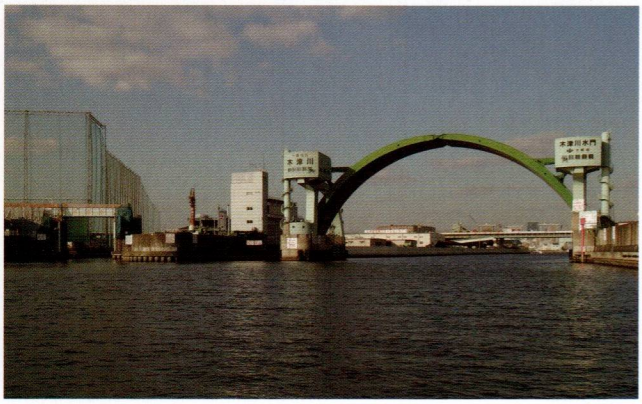
千島下水しょ理場　小林東2－5－59

JR大阪かんじょう線大正駅

地下鉄長堀鶴見緑地線大正駅

大阪市営交通局自動車部鶴町営業所　鶴町4－11－55

渡船場（写真は甚兵衛渡船場）泉尾7－13－32

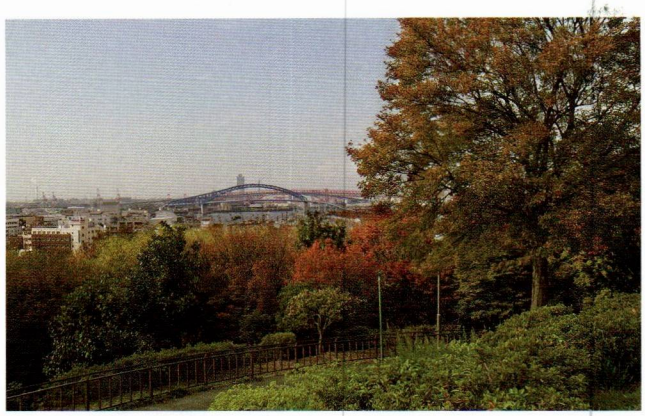


三軒家水門／木津川水門

千島体育館　千島2－7－93

アゼリア大正　小林東3-3-25

マリンテニスパーク・北村　北村3－3－70

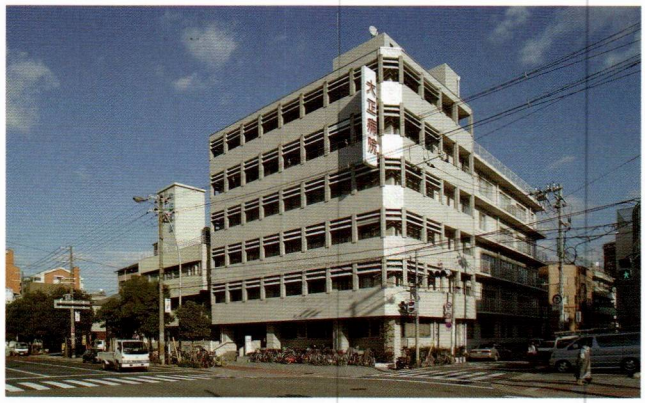


昭和山　千島2－7

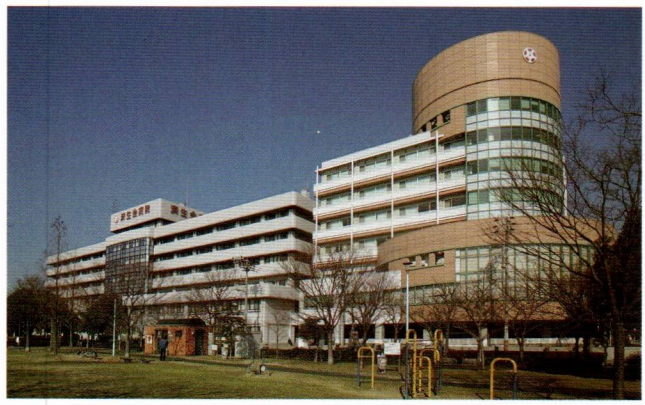
千島公園　千島2－7

大正区ふれあい福祉センター　小林西1－14－3

大正区老人福祉センター　泉尾3－9－16



大正病院　南恩加島5－5－16



済生会泉尾病院　北村3－4－5

調べてみよう

このほかにもたくさんのたて物やしせつがあるよ。「大正区立体地図」でも見てみよう。また大正区のれきしがわかる石碑ものこっているから、調べてみよう。

大正駅前

(4) 大正区の交通

道路や乗り物は、人が行き来したり、荷物を運んだりするために、利用しやすいようにくふうされてきました。そして、わたしたちのくらしや仕事に、大切な役わりをはたしています。

電車、バス、渡船など、大正区にはさまざまな交通きかんがありますが、区の北にあるJRと地下鉄の大正駅、区内を走る大阪市バスが活やくしています。また木津川と尻無川にかこまれているので、たくさんの橋や渡船があるのがとくちょうです。

あなたが利用したことがある交通きかんは何ですか。

調べてみよう

あなたの家からいちばん近い交通きかんは何ですか。その交通きかんを利用してどこかへ出かけたことがありますか。すきな乗り物はありますか。

JRと地下鉄まで歩いて10分。JRは高か鉄道になっていて、ながめがいいからすきなんだ。

歩いて5分ぐらいのところにバスのていりゅう所があるよ。JR大正駅まで行ったよ。

ものしりメモ

大正12年(1923年)7月に大正区に飛行場ができました。大阪木津川尻飛行場とよばれるものでした。

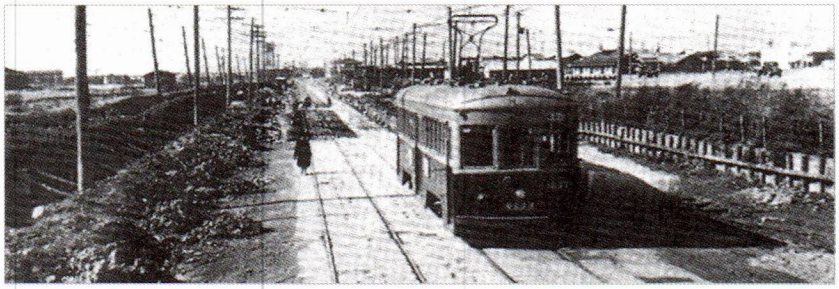
(くわしくは41ページ)

(4)－1　道路と自動車

大正区にあるさまざまな交通きかんは、それぞれ、時代とともに変わってきました。昔とくらべながら見ていくことにしましょう。

道路の写真を見くらべて、気づいたことを話し合いましょう。

今とちがって、
走っている車が少ない。



↑昔は、ほそうされていない道路も多く、晴れた日がつづくと土けむりがまい、雨の日にはどろんこ道になりました。今の道路とのちがいを見つけましょう。

車の通る車道と、歩く人のための歩道があるね。

→道はばを広くして、わたしたちが安心して歩けるようにくふうされています。ほかにも、わたしたちの安全のために、どのようなくふうがされてきたのでしょうか。

大正区の道路には、乗用車やバスのほかに、大きなトラックもたくさん走っています。それは大正区には、たくさんの工場があることや、大正内港などの港に着いた荷物を運ぶためでもあるからです。そのようなトラックや自動車が走りやすいように、道路のほそうやせいびが行われてきました。

調べてみよう　大正区には大きな道路がいくつかあります。どんな道路があるのか調べてみましょう。

【大正区の大きな道路】

- 府道大阪八尾線（大正通）
- 市道浪速鶴町線（大浪通）
- 国道43号線
- 府道大阪港八尾線（海岸通）

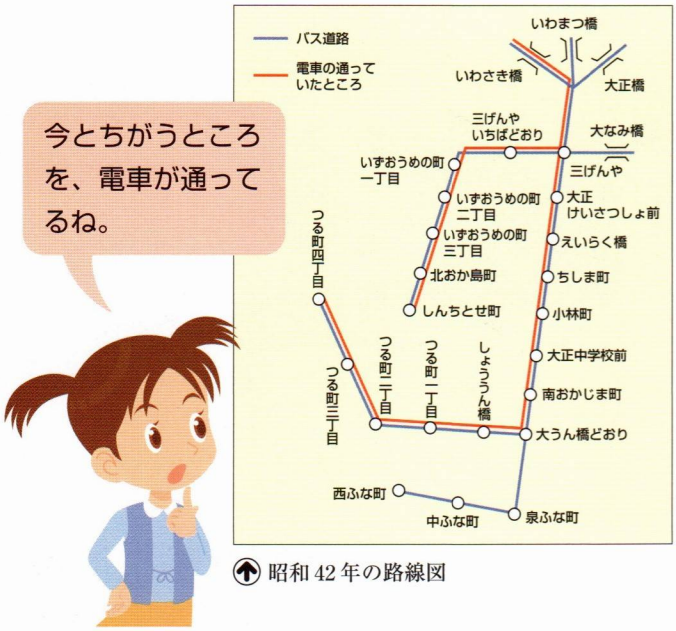
国道43号線の
上には阪神高速道路
も走っています。

わたしの
家の前は、
大正通です。

(4)－2　バスと電車

大阪市バス

下の図は大阪市バスの昭和42年（1967年）の路線図です。今とちがうところや、気づいたことを話し合いましょう。

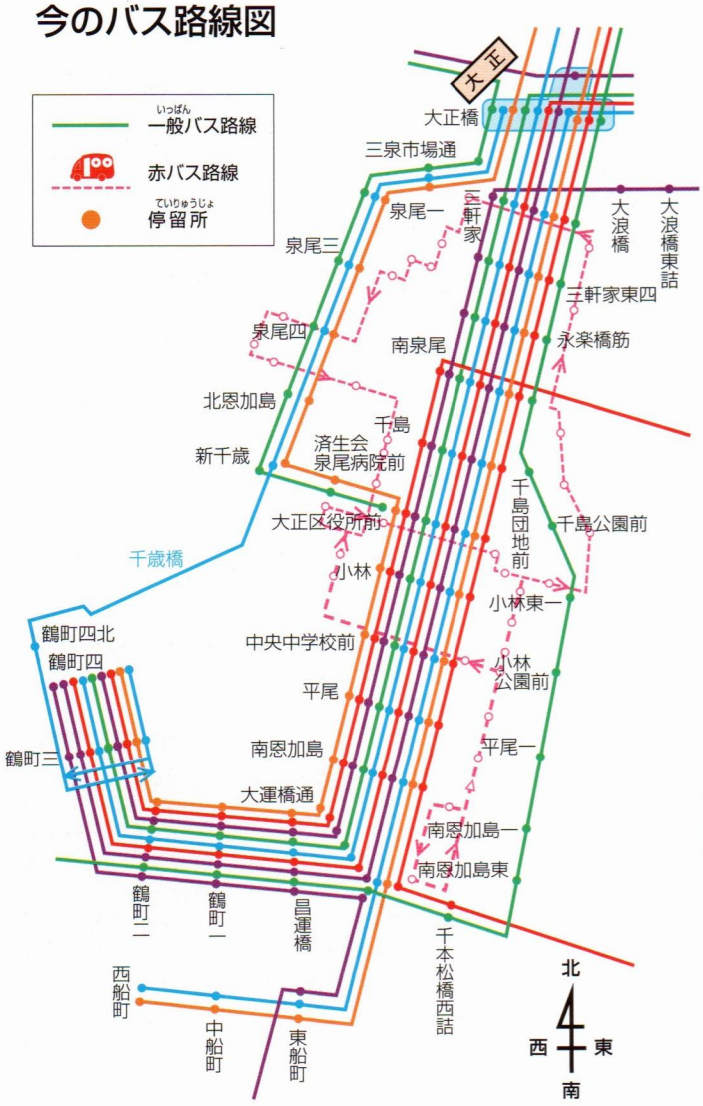


昭和42年の路線図

泉尾6丁目近くを走る市電。
昭和10年（1935年）ごろ。

大正区は市内でいちばん多くバスが走る区なんだって。

今のバス路線図



大正区では、昭和5年（1930年）4月から、大阪市バスが走りはじめました。

それまでは、市電が活やくしていました。市電は大正4年（1915年）8月に開通し、区内の交通をべんりなものにしていました。しかし、交通じゅうたいがひどくなったので、バスや地下鉄がそのやくわりをうけついでいくことになりました。

今では1日に23路線のバスが運行し、利用者はおよそ6万3千人です。

調べてみよう

23路線のバスのうちの2路線は「赤バス」とよばれているバスが走っています。どんなバスか調べてみましょう。

電　車

大正区にはJR大阪かんじょう線と大阪市営地下鉄のふたつの「大正」駅があります。いつかんせいしたのでしょうか。毎日、どれくらいの人が利用するのでしょう。

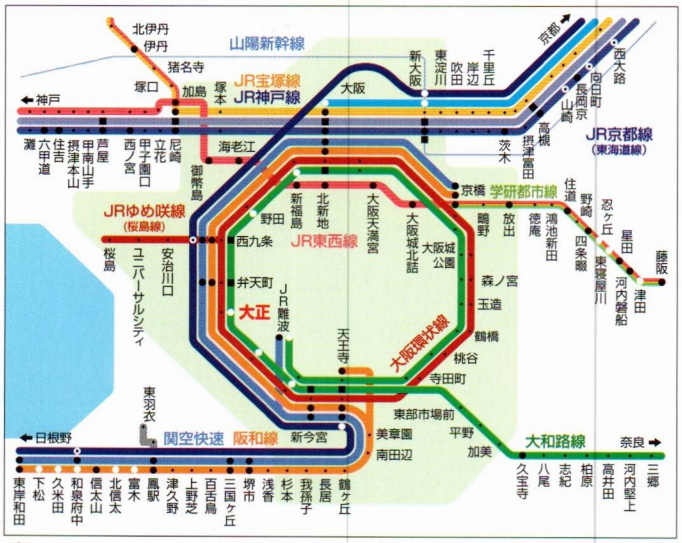
JR大阪かんじょう線「大正」駅

地下鉄長堀鶴見緑地線「大正」駅

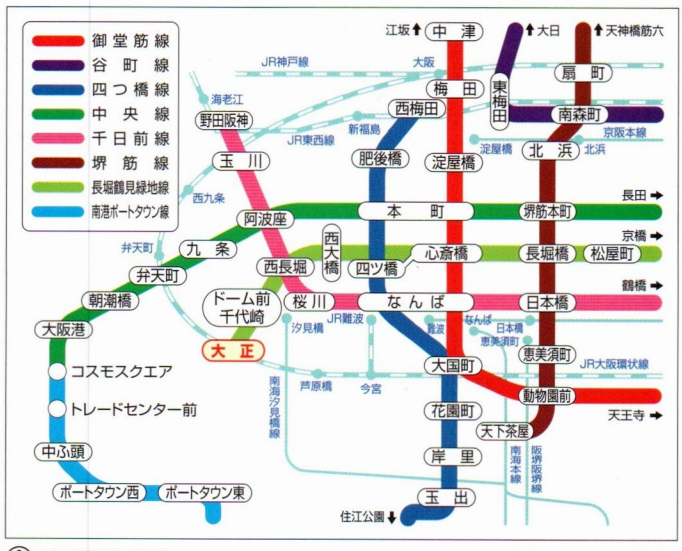
JR大阪かんじょう線「大正」駅は、大阪かんじょう線ができた昭和36年（1961年）4月にたんじょうしました。1日およそ2万3千人が乗りおりし、大阪かんじょう線19駅中10番目の人数です（平成16年度調べ）。

地下鉄長堀鶴見緑地線「大正」駅は、平成9年8月にたんじょうしました。地下鉄長堀鶴見緑地線の始発終着駅です。1日に乗る人はおよそ5千人、おりる人はおよそ4千人です（平成10年度調べ）。

このふたつの駅は、大正区のげんかんロであり、いろいろな鉄道や地下鉄の路線と乗りかえすることで、大阪市内だけでなく他の都道府県にも広くつながっています。わたしたちがいどうしたり、荷物を運んだりでき、くらしにはかかせない役わりをはたしています。



JR路線図



地下鉄路線図

(4)－3　橋と渡船

わたしたちのまち大正区は、木津川、尻無川にかこまれたまちです。昔からわたしたちのくらしには、橋と渡船はかかせないものです。今、大正区には12カ所の橋と7カ所の渡船場があります。

大正区の橋と渡船場地図

ものしりメモ

大正４年（1915年）に当時日本ではもっとも長いアーチ橋がかけられ、大正時代のはじまりにふさわしいものとして「大正橋」と名づけられました。橋は昭和49年（1974年）３月に新しく生まれかわり、今の形になっています。この橋の名にちなんで「大正区」という区の名前がつけられました。

今、大阪市内には８カ所の渡船場があります。そのうちの７カ所が大正区にあります。大正時代のはじめまでは、大正区の大部分がのどかな農村で、木津川や尻無川の渡しが、大切な役わりをはたしていました。江戸時代から始まった大正区の渡船の歴史は、自動車が多くなった今も、うけつがれています。

今も、一日およそ５千800人の人が、渡船を使っています。

「大正区の歴史を語る会」の人たちが語られた、橋と渡船のお話です。

まぁとにかく大正区っていうのは、大正橋が首根っこですからな。ほかの区に行くのにですな、大正橋を通るほかは、渡船に乗って、ほかへ行かなしょうがなかった。（生賀さん）

昭和11年（1936年）５月に、可動橋の大船橋ができたんで、小学校で見学に行ったのをおぼえています。きかいで橋を開けて、船を通したのを見て、感動して帰ってきたのをおぼえています。（鴨宮さん）

今の千島公園のすみっこが材木橋でした。材木橋は、大正区でいちばん大きな橋だったと思います。（吉識さん）

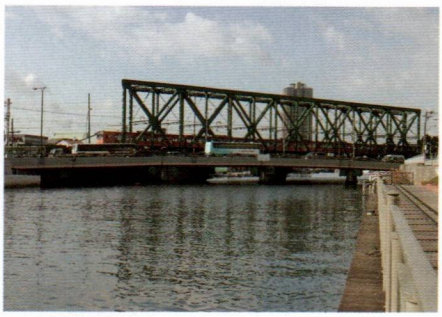
大正区の橋は、記ろく上全部で71あったそうです。その中で個人橋が19。お金持ちが自分の家や、工場への通行に使ったものです。（松田さん）

昭和16年（1941年）ごろの木津川の今木渡（「大正地区復興土地区画整理事業誌」より）

大正区にかかる橋

大正橋

大正区と浪速区をむすぶ。橋の長さ79.96メートル、はば41メートル。

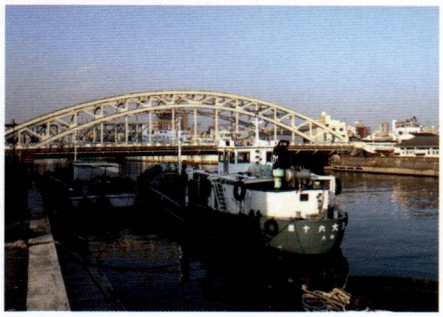


岩崎橋

大正区と西区をむすぶ。橋の長さ75.6メートル、はば19.2メートル（歩道はば1.5メートル）。

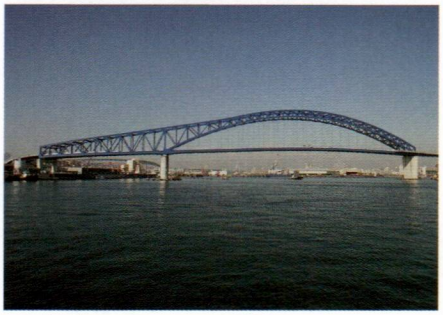
岩松橋

大正区と西区をむすぶ。橋の長さ66.44メートル、はば14.55メートル（歩道はば1.5メートル）。



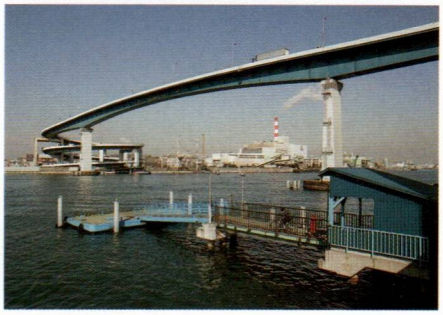
大浪橋

大正区と浪速区をむすぶ。橋の長さ81.5メートル、はば19.4メートル（歩道はば2.4メートル）。



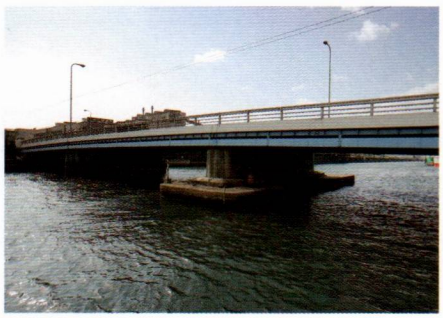
千歳橋

大正内港鶴町と北恩加島をむすぶ。橋の長さ365メートル、車道はば7.0～8.810メートル、歩道はば3.0メートル。



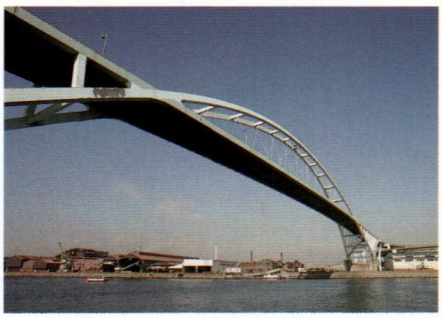
千本松大橋

大正区と西成区をむすぶ。橋の長さ323.5メートル、はば9.75メートル（歩道はば2.25メートル）、橋の中央部の高さは36メートル。



大船橋

南恩加島7丁目と船町1丁目間の木津川運がにかかる。橋の長さ113.30メートル、はば15.56メートル。



新木津川大橋

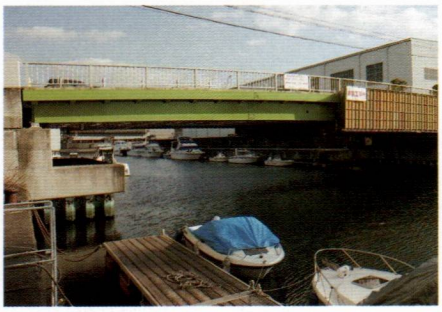
大正区と住之江区とをむすぶ。全長2.4キロメートル。3そうループ形式です。

大運橋

南恩加島7丁目と鶴町1丁目の間にある千歳運河にかかる。橋の長さ57メートル、はば18メートル。

西福橋

鶴町の2・3丁目と5丁目をむすぶ。橋の長さ38.5メートル、はば10メートル。



南福橋

鶴町1丁目と5丁目の工場地たいをむすぶ。橋の長さ35.2メートル、はば14メートル。

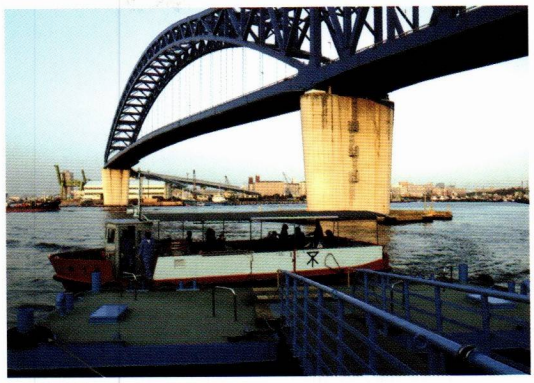
なみはや大橋

大正区と港区をむすぶ。橋の長さ580メートル、はば11メートル 。

大正区にある渡船場

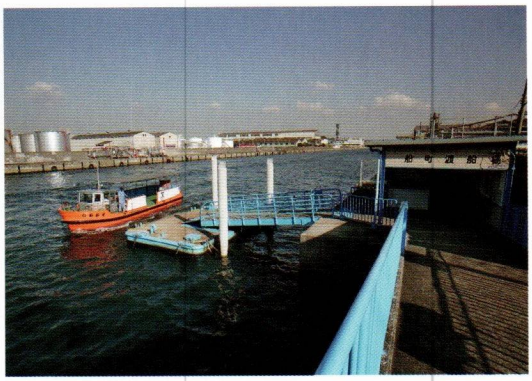
甚兵衛渡船

大正区と港区をむすぶ。



千歳渡船

北恩加島２丁目と鶴町３丁目をむすぶ。

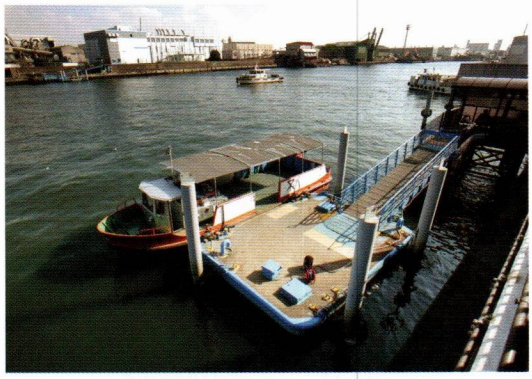


船町渡船

鶴町１丁目と船町１丁目をむすぶ。

落合上渡船

大正区と西成区をむすぶ。



落合下渡船

大正区と西成区をむすぶ。

千本松渡船

大正区と西成区をむすぶ。

木津川渡船

大正区と住之江区をむすぶ。

2 まちの人々のくらしと仕事

(1) 商店街のようす

わたしたちは、毎日の生活にひつようなもののほとんどを、近くの商店街の店やスーパーマーケットで買っています。また、電車やバスなどに乗って、デパートや専門店などへ出かけて買うこともあります。

わたしたちのまち、大正区には三軒家西と泉尾にまたがる三泉商店街、小林から平尾にまたがる平尾本通商店街をふくめ、13もの商店街と1つのモールがあります。

大正区の商店街

調べてみよう

家の人がよく買い物をする商店街はどこですか？
どんなものを買いに行きますか？

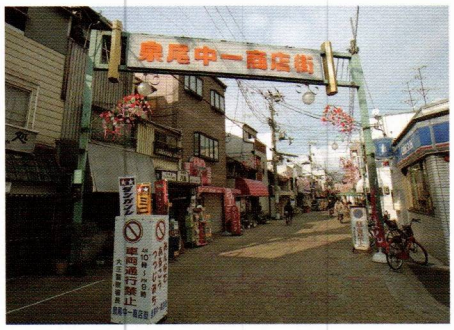
平尾本通商店街には沖縄の食べ物も売られています。明治のころからたくさんの沖縄の人たちが大正区にうつり住み、沖縄がふるさとの人が多いからです。

大正区の商店街（会）とモール

大正橋商店会

三泉（さんせん）商店街

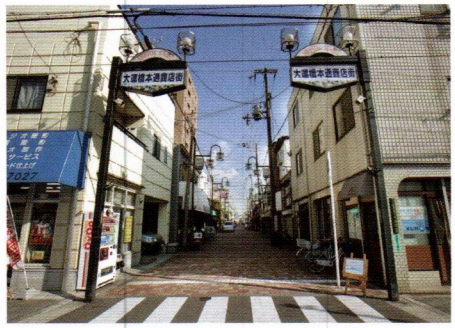
泉尾（いずお）商店街



泉尾中一商店会

泉尾中央商店街

泉尾中通商店街



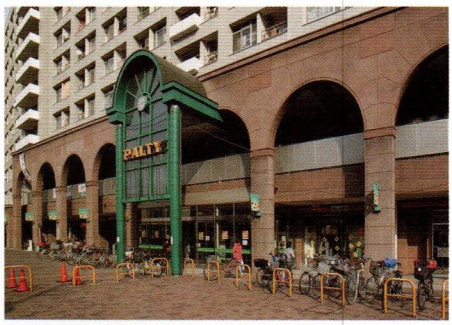
大運橋本通商店会

三泉北商店街

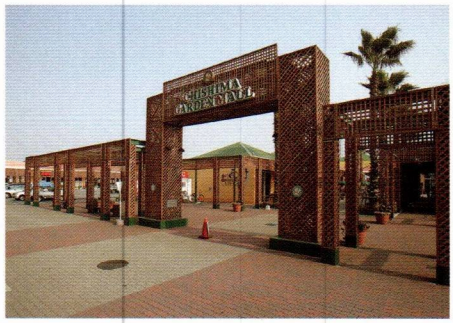
鶴町（つる）商店会

三軒家（さんげんや）中央商店会

平尾（ひらお）本通商店街（サンクス平尾）



パルティ千島商店会



千島ガーデンモール

千島商店会

(1)−1　見学に行こう

商店街の見学をしてみましょう。

見ましょう	聞きましょう お店の人に聞く	気がついたことをまとめましょう
お店のしゅるい	お客さんを集めるためのくふう	商店街全体で
商店街や店のようす	ちらしのくふう	楽しいくふうのあったお店
お店の人や買い物客のようす	お店のかざりつけのくふう	
	大正区らしいところ	

● しょうこさんのクラスでは、
近くの商店街について調べることにしました。

店のしゅるい

・食品のお店　・レストラン　・衣料店　・薬局　・銀行

商店街や店のようす

・「大売り出し」ののぼりが、商店街全体にあった。
・さかなのしゅるいが書いてあった。
・値段が大きく書かれていた。
・アーケードという大きな屋根があるので、雨でも買い物がしやすい。

商店街の人に、いろいろなくふうを、聞きました

より活気ある商店街にするために、さまざまなくふうを重ねています。

・いろいろな商店が集まって、商店街をつくります。
・商店街のチラシをつくります。
・商店街のイベントを考えたり、アーケードに大売り出しののぼりなどをたてます。
・夜店を出したり、ちゅうせん会を行ったりするなど、地いきのよさを生かした商店街づくりもすすめています。
・お客さんにアンケートを取って、より多く来てもらうためのくふうのヒントにします。
・商店街の人たちは、夜おそくまで話し合い、気持ちよく安全に買い物をしてもらうには、どうすればよいかなどを、みんなで考えています。
・地いきの人たちにあいされる商店街づくりのために、毎日力を合わせています。

木津川から見た船町の風けい

(2)　大正区の工業

船町の風けい

今の大正区はいろいろな工場があり、たくさんの人がはたらいています。工場は木津川と尻無川の近くにたくさんあります。

大きな工場は船町や南恩加島にあり、鉄こう業がさかんです。それは木津川にめんしており、外国から原りょうの鉄こう石を運んだり、せい品を運んだりするのに、船が使われるからです。また金ぞくせい品や、きかいるいを生さんする工場も、川にそってたくさんあります。

調べてみよう　あなたの校区にはどんな工場がありますか？そこではどんなものが作られていますか？

鉄こう所があるよ。たくさんの人がはたらいています。

尻無川のそばに、鉄を切っている工場があります。

ものしりメモ

明治時代の終わりごろから、うめ立て工事が始まり、鶴町や船町は大正15年（1926年）にたん生しました。

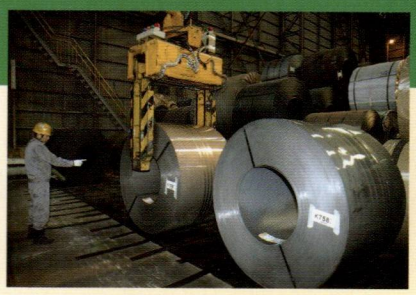
(2)－1　見学に行こう

大正区にある工場では、なにをつくっているのでしょうか。

大阪鋼圧株式会社（泉尾７－１－11）

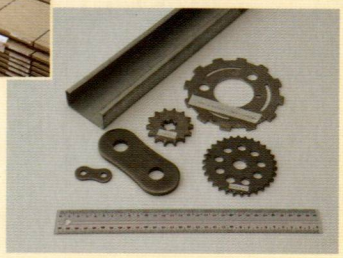
鋼材を板に切ったり、いろいろなはばに切る工場です。

鋼材を切る機械です。



大人の身長ぐらいある、大きな鋼材の輪。コイルといいます。

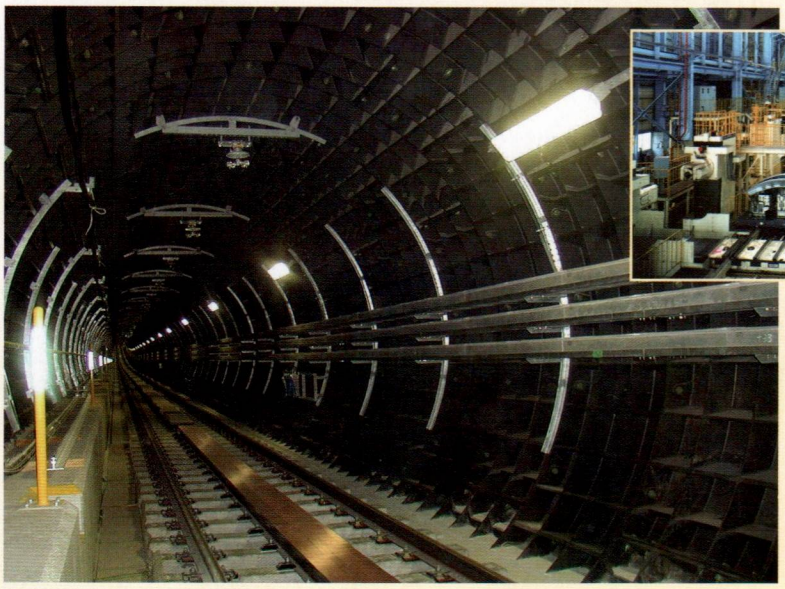
コイルをのばして、注文の大きさに切ります。



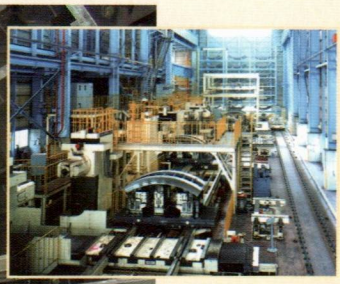
車の部品などになります。

株式会社クボタ 恩加島工場（南恩加島７－１－22）

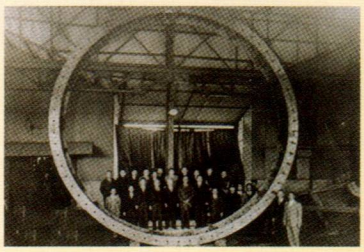
金属をとかして鋳型に流しこみ、いろいろなものを作る工場です。



新しくできた、大阪市営地下鉄今里線のトンネルに使われています。大正駅のある長堀鶴見緑地線にも使われています。



写真の真ん中にある、橋のようなものをつくります。これを組みあわせてトンネルのかたちにします。

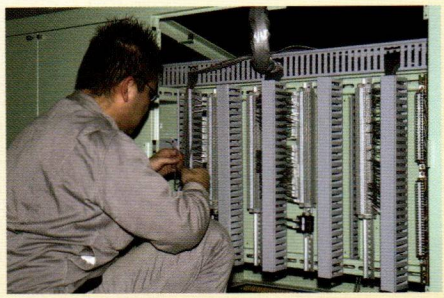


昭和14年（1939年）につくられた、山口県と福岡県を結ぶ関門トンネルにも使われています。

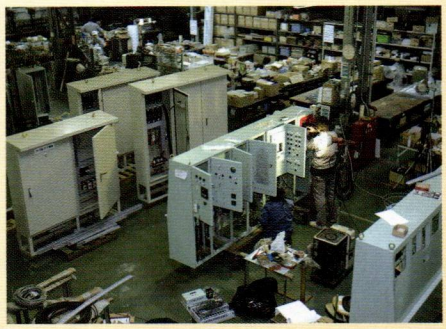
桑畑電機株式会社（泉尾６－５－６）

船などの操舵室にある、電気機器を作っている工場です。

操舵室におかれます。↑
船長が船を操作するところです。→



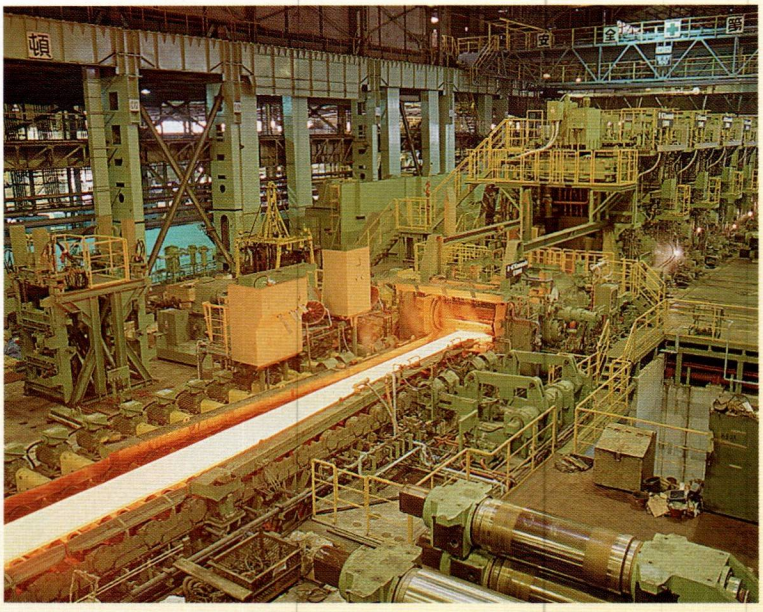
↑ 人の手で複雑な配線がされています。



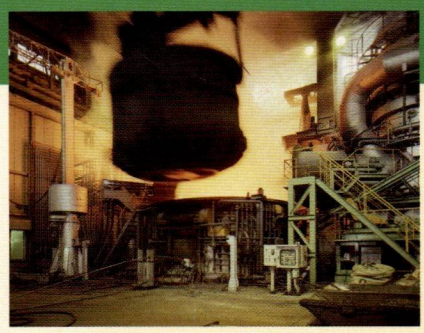
↑ 工場内のようすです。

株式会社中山製鋼所（船町１－１－66）

大正区に古くからある製鉄所です。今は環境を考えた都市型の製鉄所です。



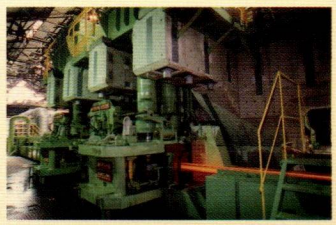
↑ 熱延工場。まっ赤にもやしてのばした鋼材は、すぐに水で冷やされコイルにします。



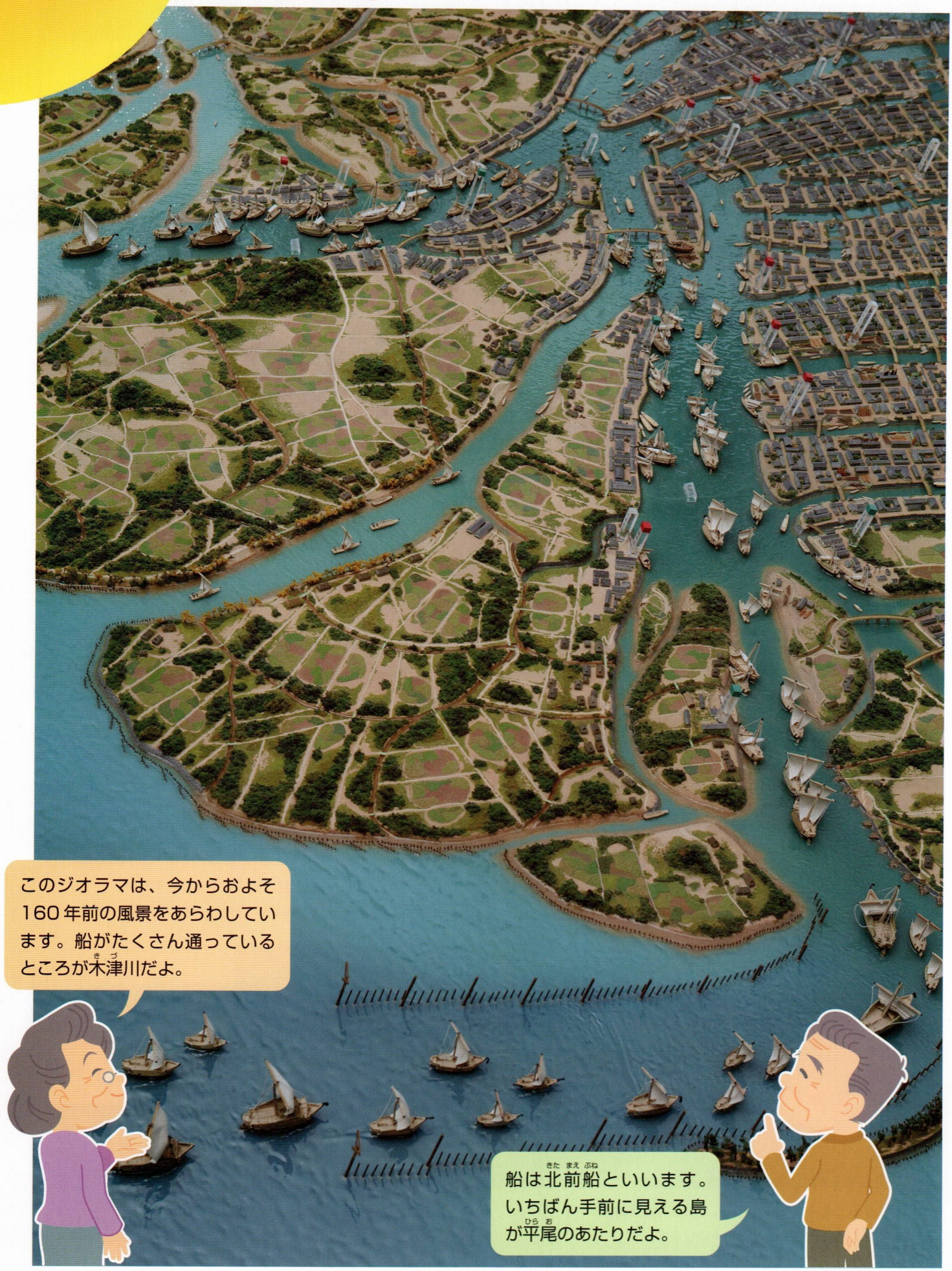
↑ 製鉄・製鋼に使われる電気炉。
ほのおの温度は1500度～1600度です。

← 前後にかたむきながら回転し、鋼鉄を作る転炉。

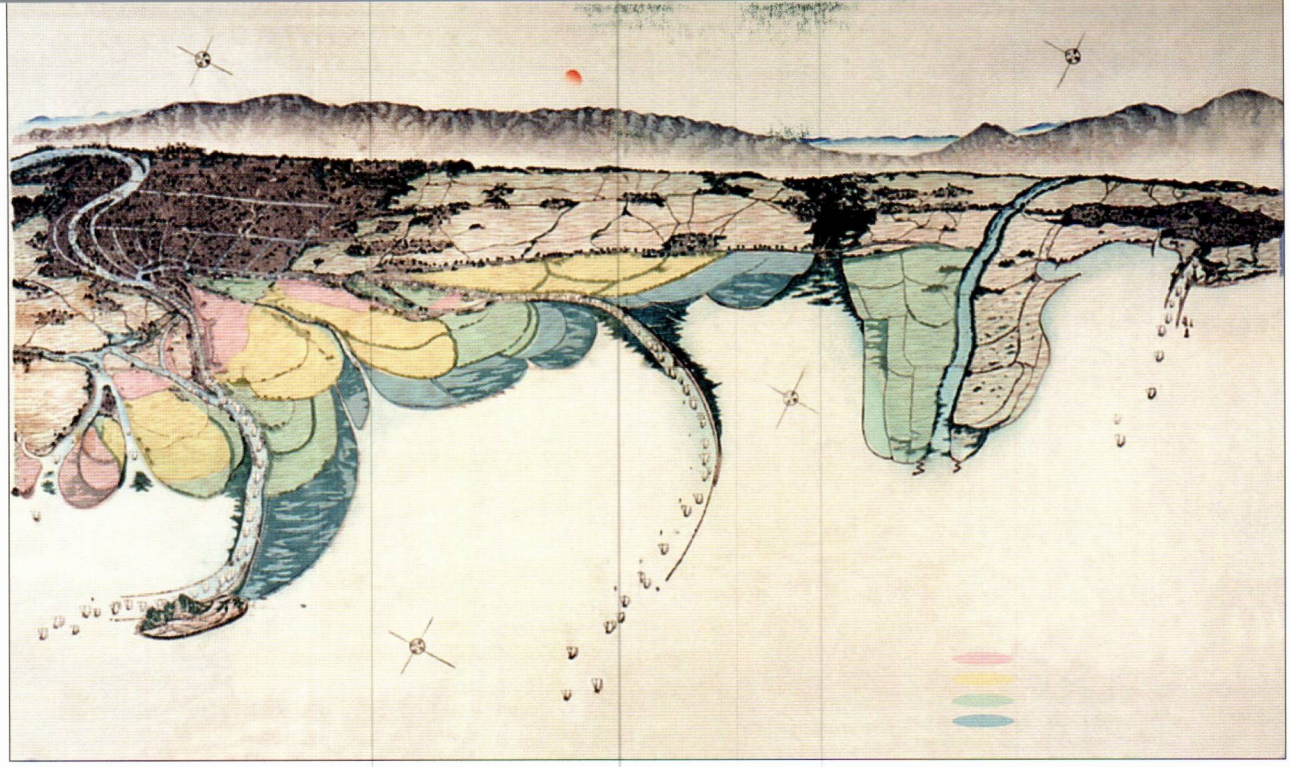
→ 棒線工場では、棒や線状の鋼鉄が作られます。



大正区の歴史



↑江戸時代の終わりのころの大正区のあたり（なにわの海の時空館のジオラマ展示）



大湊一覧（おおみなといちらん）
（なにわの海の時空館所蔵）

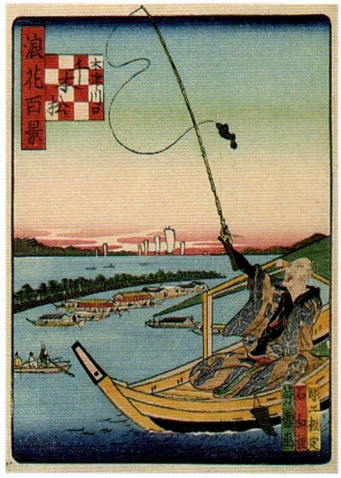
1 大正区のおいたち

（1）大正区の昔の風景

大正区のまちの形ができあがるまでには、いろいろな移り変わりがありました。

今の大正区のあるあたりは、大阪（おおさか）が難波（なにわ）と呼ばれていたころは海でした。この海に、北から淀川、南から大和川が流れこみ、土や砂を積もらせ、海からも砂や海そうが打ちよせられ、砂州（さす）や島ができました。この様子を「難波八十島（なにわやそじま）」と呼びました。大正区のある場所もそのような所でした。

浪花百景
～しりなし漆づつみ甚兵衛の小家～
（なにわの海の時空館所蔵）



浪花百景
～木津川口千本松～
（なにわの海の時空館所蔵）

江戸時代の「浪花百景（なにわひゃっけい）」という錦絵（にしきえ）にも、その様子が描かれています。「しりなし漆（うるし）づつみ甚兵衛の小家」は泉尾新田の景観です。

新田開発では、新田のまわりに、てい防を築いて高潮から守る必要があったのです。これには苦労したようですよ。

〈ことばのいみ〉
北前船って!?
春に大阪を出て北海道まで荷物を運んでいた船です。

(2) 地域の発展につくした人々

江戸時代に入ると新田が作られることになりました。はじめは、庄屋を中心に村人が共同で土地を作っていきましたが、江戸時代の中ごろになると新田開発を幕府からうけおい、独力で開いた「町人請負新田」が多く見られるようになりました。町人請負新田は、三軒家では中村勘助、泉尾では北村六右衛門、千島や恩加島では岡島嘉平次らが中心になって作られました。

また、明治から昭和初期にかけて、3,000軒の借家を経営しながら地域につくしてきた大井伊助や、実業家として大正区に大きな工場を建てた中山悦治の活やくもありました。

この人たちの努力や苦労を記念するために、碑がたてられたり、像がまつられたりしています。

〈ことばのいみ〉

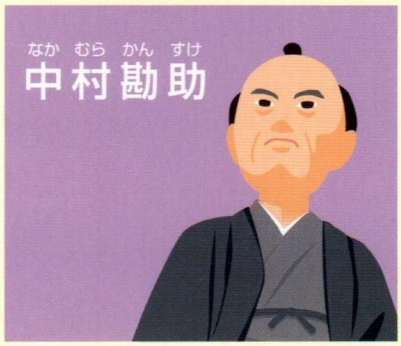
請負新田
請負新田とは「作った新田は作った人の土地となる」という制度。

町名の由来と新田開発につくした人、まちの発展につくした人

三軒家

当初、3軒の民家があったのでそう名づけられました。
江戸時代には「三軒家」は「三軒屋」と表記されることが多かったようです。

三軒家東公園にパネルがあります。

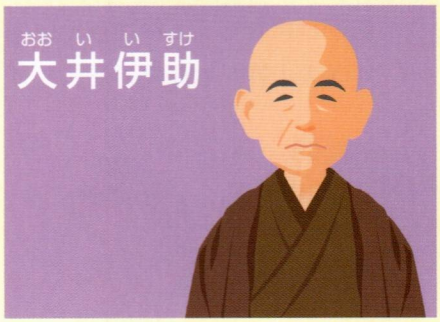


慶長15年（1610年）木津（現浪速区）に移住、今の三軒家の姫島を開発し、後に勘助島と呼ばれました。また木津川の川底を深くして船運をよくしました。

鶴町

鶴町の町名は「難波宮」の近くの光景を「田辺福麻呂」が詠んだ「潮干れば葦辺に騒ぐ白鶴（百鶴とも）の妻よぶ声は宮もとどろに」（万葉集）から「鶴」の文字をとりました。

鶴町中央公園にパネルがあります。



北村

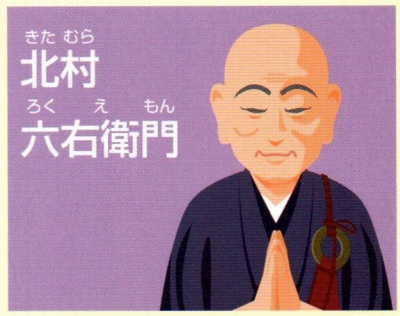
泉尾新田の開発者、北村六右衛門の名から名付けられました。

北村公園にパネルがあります。

泉尾

もとは三軒家浦新田と名付けていましたが、検地を受ける時に開発者の国名（和泉）村名（踞尾）から一字ずつ取って「泉尾新田」と名付けられました。

泉尾公園にパネルがあります。



元禄11年（1698年）に新田開発を始め、元禄15年（1702年）に検地を受け「泉尾新田」が完成しました。開発が難工事であったため、犠牲となった人や牛馬、魚貝類などを供養するため「了照寺」を建てました。

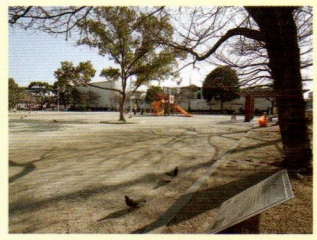
平尾

岡島嘉平次が新田開発の許可を受けましたが、その一部を譲り受け、明和8年（1771年）検地を受けた、大坂江戸堀（現在の西区）の平尾与左衛門の名から名付けられました。

平尾公園にパネルがあります。

北恩加島・南恩加島

岡島嘉平次が開たくした土地。当時の代官岸本武太夫の命で「岡島」を「恩加島」と換用したものです。「恩加」は後世に恩をあたえるという意味。北側が「北恩加島新田」、南側が「南恩加島新田」です。



南恩加島公園にパネルがあります。

千島

岡島嘉平次により、明和5年（1768年）から順次開発されました。地名は千林村の「千」と、姓の岡島の「島」をつなぎ合わせて命名されました。

千島公園にパネルがあります。

小林

岡島嘉平次が開発し、天保3年（1832年）に検地を受け、出身地の千林村の「林」をとって「小林」と名付けました。

小林公園にパネルがあります。

岡島嘉平次

初代の岡島嘉平次は、東成郡千林村（現旭区）に宝永6年（1709年）に生まれました。彼は、木津川と尻無川間の開発に着目し、江戸まで行き幕府に許しをもらっています。初代の亡き後も2・3・4代の子孫が遺志をつぎ、新田開発を進めました。

元治元年（1864年）に泉尾新田に生まれました。大正9年（1920年）にはこの地の将来性を考えて、借家業を行いました。正直一徹の精神で、地域の教育、産業、警防、慈善、社寺などに寄付もしました。

明治16年（1883年）福岡県生まれ。株式会社中山悦治商店を設立し、船町に薄鈑工場を建て、のちに株式会社中山製鋼所となりました。社会事業や育英事業、そして自分の事業として青少年を教育したいとのことから学校経営にも力を注ぎました。

(3) 土地利用の移り変わり

大正区の土地は、江戸時代以前から続いてきた三軒家、難波島と、江戸時代以降に木津川、尻無川の河口に開発された新田、そして大正時代に作られたうめ立て地によってできています。

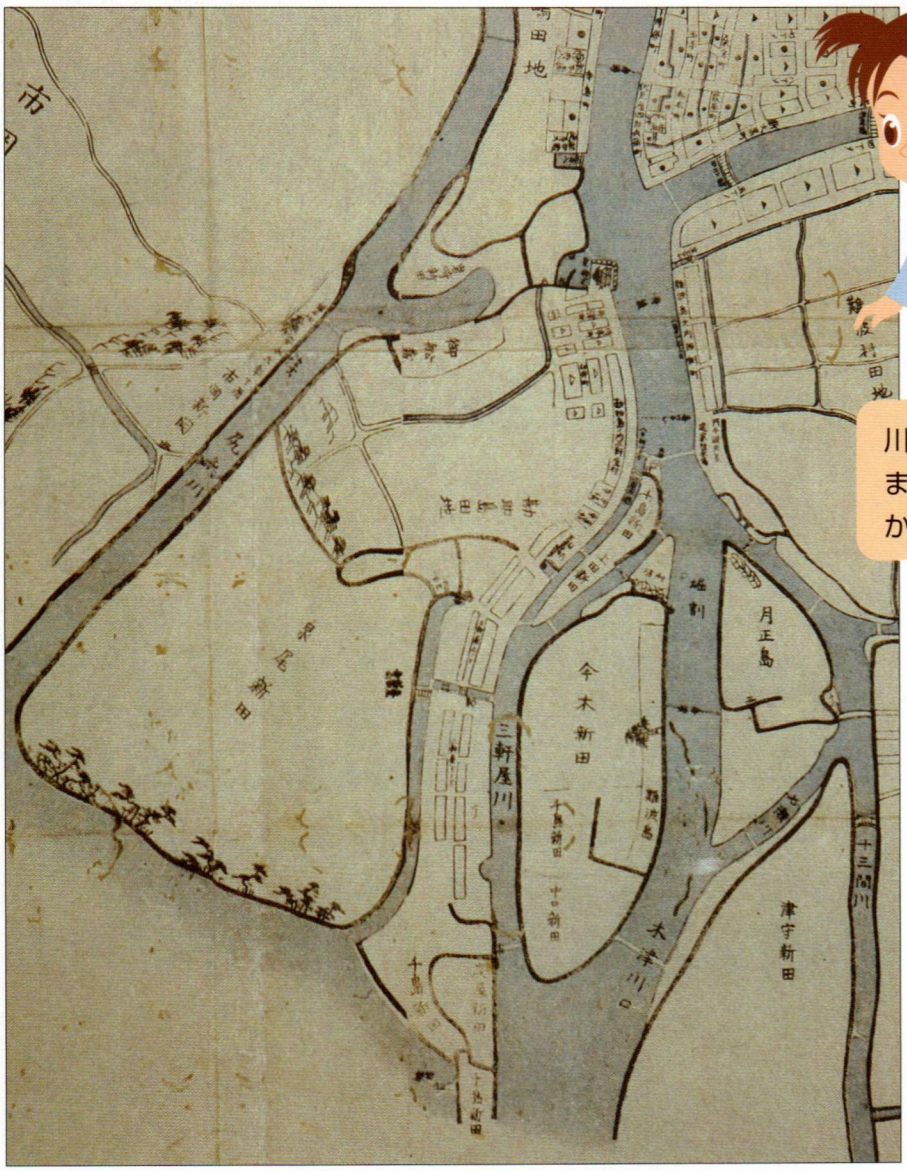
時代を追って、土地利用の移り変わりをみていきましょう。

(3)−1　江戸時代の土地活用

江戸時代は新田開発によって、農地として利用されました。

木津川、尻無川から穀物、野菜などを作るために用水路ができ、米・麦・綿などをさいばいする水田や畑が一面に広がっていました。用水路には船も通っていました。

特に綿はよくでき、花の季節には綿の花で一面がまっ白になりました。



↑綿作・農業がさかんだったころ（文化三年「増修改正摂州大阪地図」）

ものしりメモ

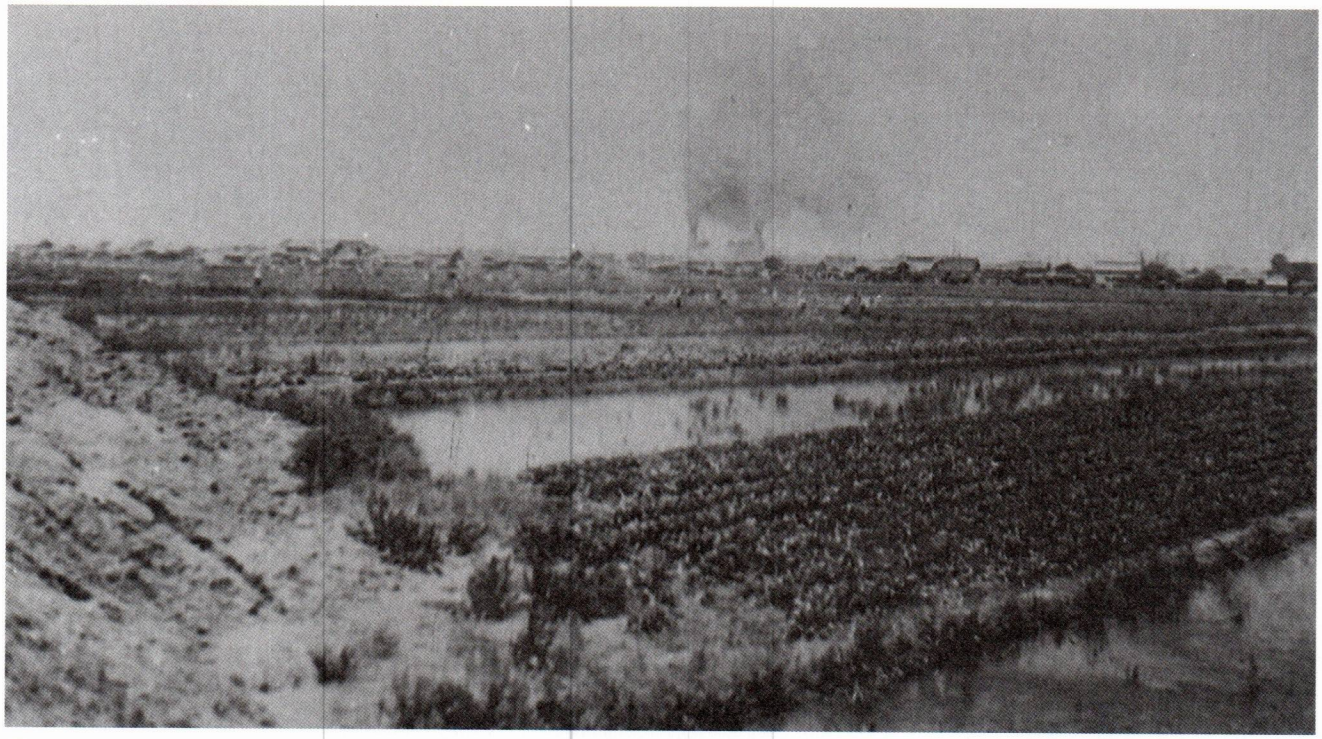
安永9年（1780年）に、いねの虫が広く発生したので、「虫送り」が行われました。
農民がみんなでたいまつを燃やし、たいこなどを鳴らす行事で、8月13日の夜から3夜続けて行われました。

「大正区の歴史を語る会」の人たちが語られた、田畑の様子です。

泉尾新田では、綿がたくさんとれたようです。すいかのできも非常によかったようです。（田中さん）

白い花がさく綿畑を、市中から大勢船で見に来た、というような記録が残っています。（松田さん）

江戸時代から、綿買人がおられました。大正区の平尾も泉尾も、一面が綿畑だったようです。綿は完全なしっ地ではできないようです。江戸末期の絵地図に、三軒家のすいかと書かれていますね。綿のできるところは、ちょうど、かわいた土地としっ地の中間なんです。（岡田さん）



↑大正12年ごろの尻無川左岸千歳新田あたり（「大正地区復興土地区画整理事業誌」より）

今の区役所から南側一帯は、全部ねぎ畑でした。大正区からねぎを中央市場へ出荷したんですよ。（宮城さん）

南恩加島とか平尾は、すごくねぎがとれたようですね。西成でも空いているところいうたら、みなねぎ畑でした。（豊原さん）

平尾のねぎは有名でした。今の消防署あたりは、みんなねぎ畑でした。（東江さん）

ねぎ畑があって、すいか畑があって、船に積んで井路（水路）を通って運んでいましたよ。（山口さん）

(3)－2　明治時代の土地活用

明治時代になると、船着き場として栄えた三軒家などは、農業のほか、商業、工業が起こり、近代化をむかえました。

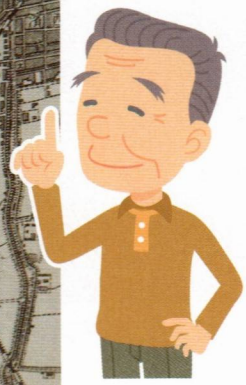
明治16年（1883年）7月三軒家村には大阪紡績会社ができました。古くから船着き場としてにぎわい、石炭や原料、製品の運ぱんに便利なので、この土地が選ばれたそうです。

この後、造船工場やれんが製造工場、鉄鋼所などが続々とでき、現在は大会社となっている工場もあります。

また、農地の泉尾新田は、泉尾百二十町歩といわれ、二十町歩が水田、百町歩の畑では、米や綿のほか、きゅうり・すいか・しろうり・ねぎなどがさいばいされました。

地形図大阪近傍十八号（大正元年発行）

大正区でも、野菜やくだものが作られていたのですね。



そうだね。このころは、まだ大正区という名前ではなかったのだよ。

ものしりメモ

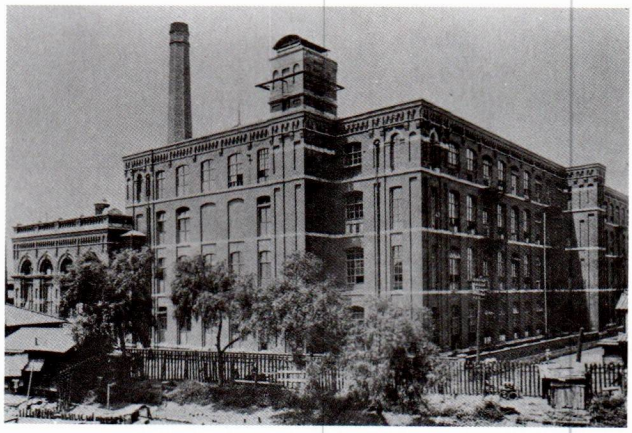
大正区は、明治元年（1868年）は大阪府西成郡、明治30年（1897年）に大阪市西区に、大正14年（1925年）に港区に、そして昭和7年（1932年）に大正区となりました。

「大正区の歴史を語る会」の人たちが語られた、工業の様子です。

大阪紡績会社は、ずいぶん広いエリアを持っておりまして、少なくとも大浪橋から南のほうへ、三軒家東４丁目いっぱいくらいまであったと思います。大浪橋の大きな団地がありますね。あそこは紡績工場の土地で、あの辺はずっと上の八坂神社まではほとんど女子寮があったわけです。メインの工場はレンガづくりの立派な建物で、４階建てだったと思うんですけれど、本当にきれいな工場でした。（大谷さん）

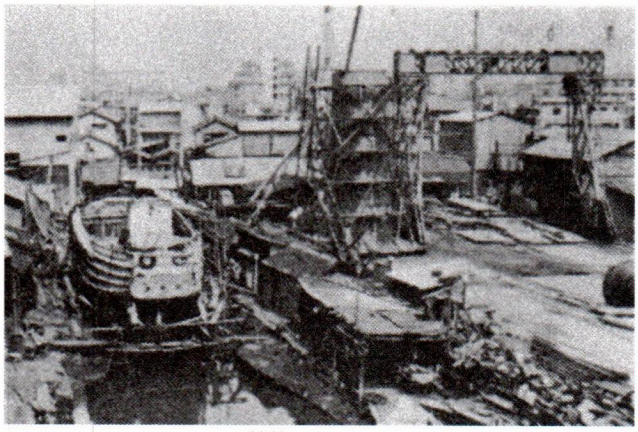
三軒家西３丁目に豊田自動車の母体となった、豊田自動織機の工場がありました。（岡田さん）

南恩加島には、映画館とボウリング場もありました。（谷さん）



大阪紡績会社（「懐かしい大正区の風景」より）

戦前、鶴町にも「鶴町座」「港館」の２軒の映画館があり、当時入れかえなしで大人が10銭か30銭ぐらいで、停はく中の船員や町の人たちで賑わっていたように思います。（森本さん）



尻無川沿岸の造船所（「大正区史」より）

日立造船所のところでは、キャッチャーボートや捕鯨母船が集まり、人々の見送りを受け南氷洋に向け出発しました。（宮城さん）

藤永田の造船所というのは住之江区にありましたが、大正区の船町にもあり、現在の中山製鋼所の一角で、ドックが２本ありましてね、ここが船台になっておって、小さい船を出しておったんです。（白坂さん）

私らこの藤永田の進水式、学校から見に行きました。（黒沢さん）

(3)−3　戦後の港の整備と土地活用

大正区は第２次世界大戦で３回の大空襲を受け、区の大半が焼けました。

戦後、大正区をもう一度元気なまちにするために、みんなが立ち上がりました。広い道路や公園を作り、大正区のまちなみが整っていきました。

また、大阪の港をもっと利用できるように、昭和22年（1947年）から大阪港では大きな工事が始まりました。そのひとつが大正内港をつくることでした。大正内港は、大阪の港の利用を便利にするために計画されたものですが、川や海のしゅんせつ工事でできた土で大正区の地面を高くし、高潮に強いまちが実現しました。

昭和38年の様子

ものしりメモ

大正運河は、木津川と尻無川を結ぶ運河で、大正12年（1923年）に完成したものです。木材を運ぶために活やくしました。しかし、陸上の輸送が活発になり、昭和45年（1970年）にうめ立てをしました。

「大正区の歴史を語る会」の人たちが語られた大正内港の様子です。

千歳のほうにはよく行きました。（今は大正内港になっているが）むこうに水門がありましたね。千歳大橋のすぐ右にね。（新城さん）

鶴町、千歳町の間の土を取って（大正内港造成のため）、玉ねぎ畑、ねぎ畑にうめたんや。（米田さん）

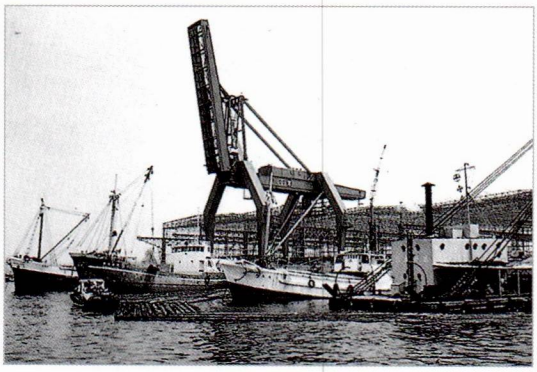
（大正内港ができる前）千歳橋をとったあとにね、民間が渡船を作っておりまして、10円か20円か、40年前の話やけど、金を支払ってわたったことが何回かあります。それから船町から住之江にわたるのにフェリーがありましてね、4台ぐらい車が乗る船でした。（米田さん）

土手みたいに高く築いてね、海水といっしょに、どんどんどんどん土管みたいなんからどっと流しこんで、土砂を。それで水が引くのを待っているっていうか、うめ立ててるんです。この南恩加島、平尾あたりはね。（寺口さん）

大正内港ができたころから、はしけが少なくなってきたように思います。（宮城さん）

旧千歳小学校から見た様子。写真の右の方に見えているのが、今は大正内港になっている新千歳貯木場。（目で見る大阪市の100年〈下〉より）

新千歳小学校から鶴町方面の様子。今は大正内港になっています。（目で見る大阪市の100年〈下〉より）



北恩加島の一部として整備した鉄鋼ふ頭。船の様子が当時を物語っています。（「懐かしい大正区の風景」より）

昭和49年（1974年）、ほぼ全体を現しつつある大正内港。（「懐かしい大正区の風景」より）

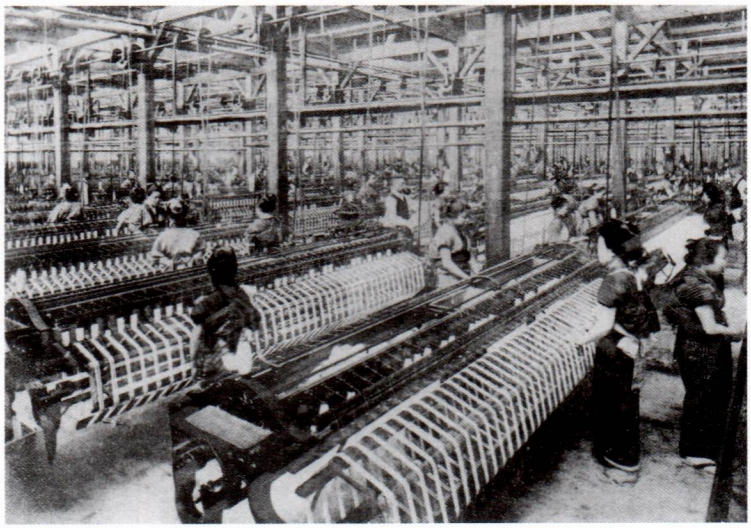
(4) 写真でみるあのころの大正区

(4)−1　東洋のマンチェスターと呼ばれていたころ

明治16年（1883年）、三軒家村に日本で最初の大規模紡績工場「大阪紡績会社」が、渋沢栄一や藤田伝三郎らによって作られました。大阪の中心部からはなれていましたが、港がとなりにあるため、石炭や原料、製品を運ぶのに便利なことから三軒家村が選ばれたようです。

その後、まわりにも数多くの紡績せんい会社が作られ、大阪が「東洋のマンチェスター」と呼ばれるようになりました。

明治19年（1886年）には、民間で初めての電灯がともり、工場全体が夜でも昼間のように明るく浮かび上がりました。（「懐かしい大正区の風景」より）



女性もたくさん働いていたようです。（「懐かしい大正区の風景」より）

東洋のマンチェスターって、なんだろう？

1760年代（江戸時代）にイギリスのマンチェスターで起こった産業革命は、せんい工業などの機械化による大工場が誕生し、社会を変えました。そのことから大阪が「東洋のマンチェスター」と呼ばれたのだよ。

ものしりメモ

この人はどんな人だったのでしょう。

● **渋沢 栄一**（しぶさわ えいいち）
天保11年（1840年）生まれ。埼玉県出身の実業家。近代日本資本主義の父と呼ばれる。大阪紡績会社の創始者。

● **藤田 伝三郎**（ふじた でんざぶろう）
天保12年（1841年）生まれ。山口県出身の関西を代表する実業家。大阪経済の基礎を築いた関西実業界の中心人物。

(4)－2　大阪俘虜収容所のこと

南恩加島の木津川に面した場所に、第一次世界大戦のドイツ軍ほりょ760名が収容されました。大正３年（1914年）11月11日のことでした。

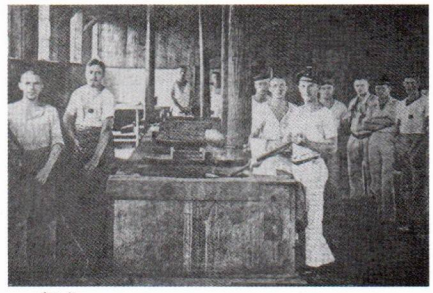
ここでの暮らしは、朝夕２回の点呼を受け、その他の時間は読書や絵画、園芸・演劇・音楽・スポーツなどを楽しみました。また食事は整った調理場で自分たちで調理し、栄養もよいものでした。バウムクーヘンを作ったカール・ユーハイムも収容されていました。

大阪俘虜収容所全景（鳴門市ドイツ館所蔵）

オーケストラ（鳴門市ドイツ館所蔵）

サッカーチーム（鳴門市ドイツ館所蔵）

体操チーム（鳴門市ドイツ館所蔵）



炊事風景（鳴門市ドイツ館所蔵）

ものしりメモ

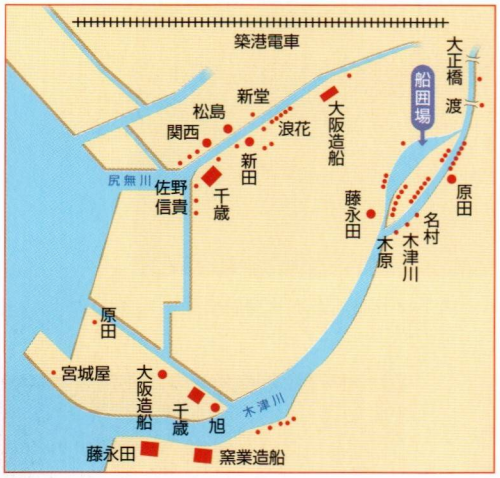
第一次世界大戦は、1914年（大正3年）、ドイツ、オーストリア、イタリアとイギリス、フランス、ロシアとの対立を背景に起こった、世界的規模の戦争です。ほりょとは、戦争などで敵にとらえられた人のことです。

※「俘虜」と「ほりょ」は同じ意味です。

(4)－3　大正時代の造船所

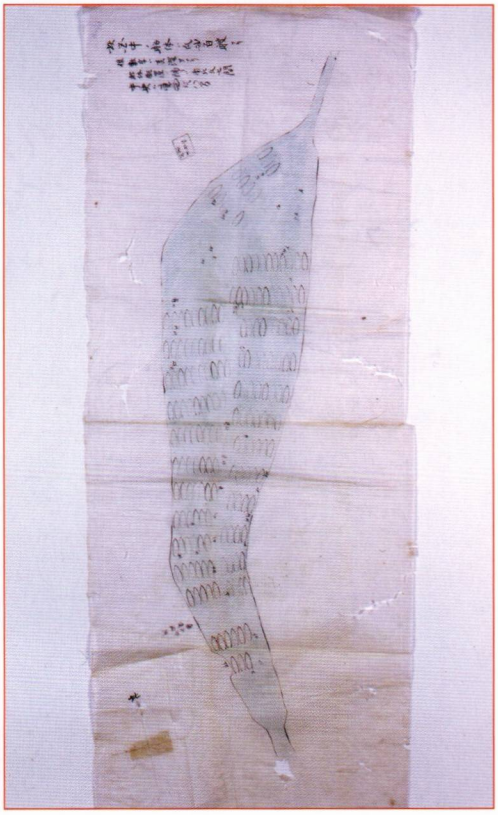
わたしたちのまちは、古くから、海に面している、大きな川がある、という地形を利用して発展してきました。江戸時代には、「天下の台所」と呼ばれた「大坂」を支える港町として、重要な役割を果たしてきました。

木津川には多くの船が集まるようになり、明治時代には航海に出ない季節に北前船をとめておく船囲場ができました。その後、船囲場のあったところに造船所が集まってきました。大正７年ごろは、区内の木津川筋にあった32の造船所のうち、難波島と三軒家周辺には、22の造船所が集まりました。尻無川筋には16の造船所がありました。

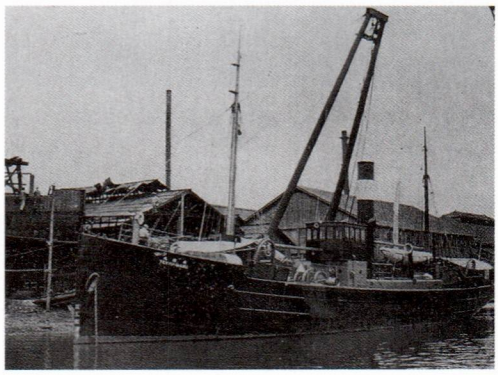


大正時代中ごろの大正区とその周辺の造船所

木津川をゆく艀と曳き船
（目で見る大阪市の100年〈下〉より）



大阪三軒家船囲場1/2000縮図
（北前船の里資料館所蔵）



明治36年（1903年）に創業した原田造船鉄工所
（目で見る大阪市の100年〈下〉より）

〈ことばのいみ〉

船囲場って!?
船が流れないように止めておく場所で、船の駐車場のようなものです。

(4)－4　貯木場のあったころ

大正７年（1918年）ごろからは、大正運河を中心に、各所に貯木場が完成し、昭和７、８年（1932、３年）ごろには500から600の木材市場や製材所などがありました。西日本はもちろん、中国などとも取引きをしていました。

にぎやかなまちをつくっていた大きな貯木場は、大正内港の完成にともない昭和20年（1945年）代から平林（住之江区）へと移っていきました。

昭和17年（1942年）ごろ。大正内港になる前の千歳町の貯木場がよく見えます。（「懐かしい大正区の風景」より）

昭和初期の小林町の貯木場（目で見る大阪市の100年〈下〉より）

貯木場の遊びは危険なため、昭和40年（1965年）ごろに注意の看板が立てられました。（「懐かしい大正区の風景」より）

ものしりメモ

貯木場とは丸太を保管する場所です。木材は水につけておくと割れにくく、水にうかべたままだと、簡単に丸太を運ぶことができるので、非常に便利なことから運河に貯木場が作られました。

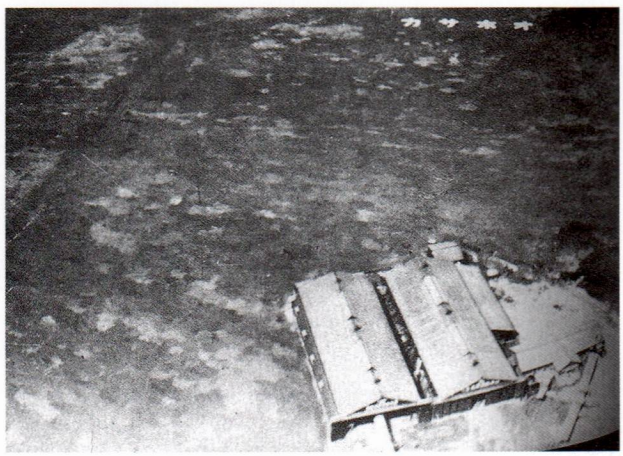
(4)－5　飛行場のあったところ

クイズです！大正12年（1923年）7月に大正区にあるものができました。それはなんでしょう？

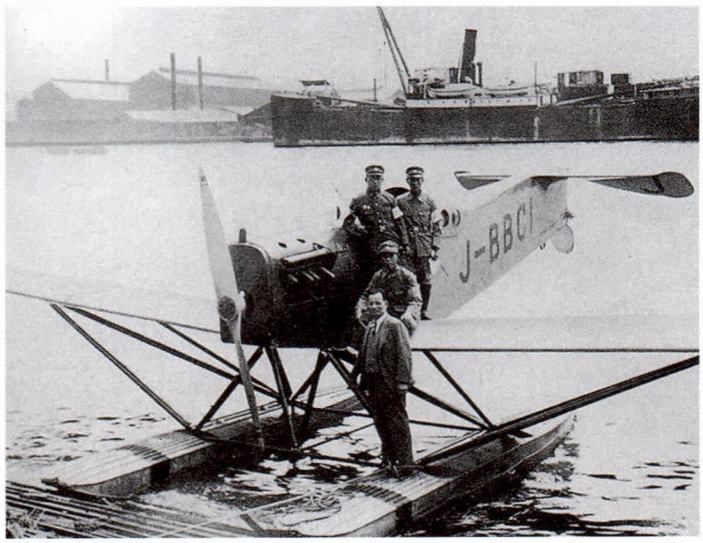
1.新幹線の駅　　2.飛行場　　3.昭和山

正解は2。大正区には大阪木津川尻飛行場と呼ばれるものがありました。現在の船町2丁目あたりです。

大阪木津川尻飛行場は木津川尻うめ立て地に、水上機（のちには陸上機も使用）による定期航空のために作られました。大阪―別府間の定期航空や大阪―ソウル―大連間の国際定期郵便飛行が行われました。昭和4年（1929年）4月からは日本初の公共用空港、大阪飛行場（木津川）として再開場され、東京―大阪間と大阪―福岡間も開設されました。



↑ 逓信省（現総務省）から公共飛行場の指定を受けていました。河川に発着するので水上機や飛行艇が主力でした。（「懐かしい大正区の風景」より）



↑ 乗務員の訓練用として使われていたドイツ製の水上機。（「懐かしい大正区の風景」より）

↑ 当時の客室乗務員“エアガール”。（「懐かしい大正区の風景」より）

↑ 木津川のたもとに「木津川飛行場跡」の碑があります。（「懐かしい大正区の風景」より）

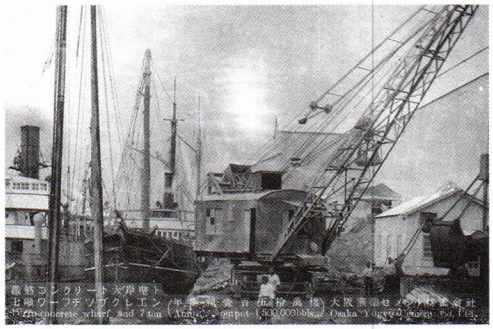
〈ことばのいみ〉

水上機って!?
水上で発着するフロート（浮舟）をもった飛行機。水上飛行機のこと。

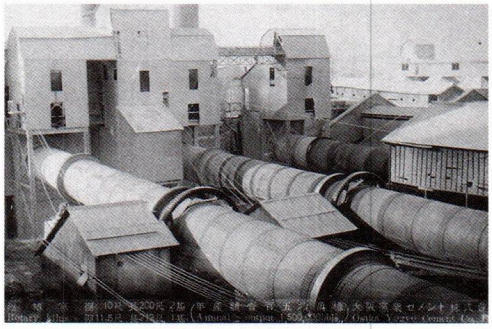
(4)－6　大正時代から昭和時代の臨海工業地帯

大阪紡績会社につづき、明治20年代を中心に造船所やレンガ製造工場がつぎつぎにできました。明治27年（1894年）の日清戦争前後から金属、機械工業がさかんになり、大正時代には、港に近い鶴町・福町・鶴浜通・船町をうめ立てた臨海工業地帯が作られ、セメント・製鉄・造船・造機などの大工場ができ、大正区の工業は大きく発展しました。

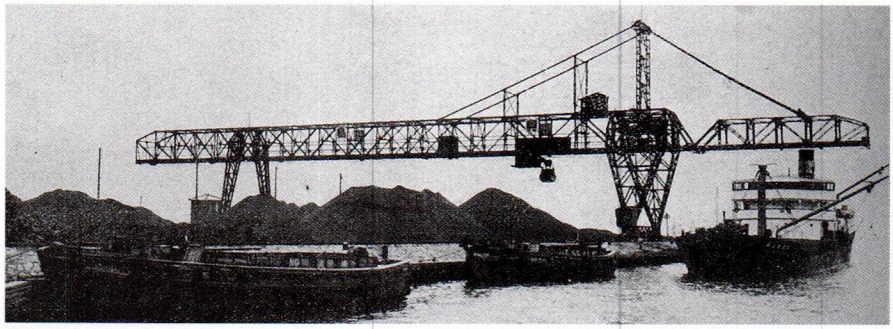
昭和2年（1927年）には外国資本の自動車会社が鶴町に進出し、日本の自動車工業の中心地のひとつとなりました。昭和7年（1932年）に「大正区」が誕生し、昭和10年には工業生産高は機械・金属工業を中心に大阪市で2位となり、昭和15年には人口も15万人をこえました。



大阪窯業株式会社（のちの大阪セメント株式会社）の鉄筋コンクリートの大岸ぺき。
（「懐かしい大正区の風景」より）



大阪窯業株式会社の工場内。
（「懐かしい大正区の風景」より）



鶴町にあった貝島商業株式会社の貯炭場。（目で見る大阪市の100年〈下〉より）

ものしりメモ

臨海工業地帯とは、海岸地域に造られた工業地域をいいます。うめ立て地や干たく地に作られ、専用の港を持っていることが多く、原料の入手や製品の運び出しに有利です。

「大正区の歴史を語る会」の人たちが語られた、変わりゆくまちの様子です。

●貯木場の思い出

材木は川の底のヘドロがなかったら、虫食うてどうしようもない。ヘドロがあるから虫食わなんだんや。海水と真水が合わさるところが、ちょうど小林町。そこの川の底がヘドロで、材木はぜったいに虫食わん。それでみんな木を川へ投げ入れていた。小林いうたら材木の町やなって、みな知ってますわ。（有田さん）

水難事故がときどきおこりました。わたしも友人を亡くしつらい思いをしました。（宮城さん）

材木から落ちたらもう上がれません。材木はワイヤーでつながれているから、その間へ入ったら、もう絶対出られません。（中居さん）

●大阪飛行場の思い出

飛行機がザァーッと下りてきて、クレーンで中へ引きこんでお客さんを下ろす。出発の時も水上でした。（白坂さん）

フライトアテンダント（客室乗務員）の第１号は大正区が最初でしたからね。着物姿のエアガール。運賃は最初、大阪―高松間で40円。今で言ったら20万円ぐらいとちがいますか。（松田さん）

●工場の思い出

昔はえんとつがたくさんあって、「ええんじゃ、ええんじゃ」いうようでした。その煙の濃度を測るんですわ。煙が出とったら「ええんじゃ」いうて、ようやっとるなというもんですわ。それでも、黒い煙を出したらいかんなということで、よく測りに行きました。（吉織さん）

ゼネラルモータースという大きな工場がありました。あのころは鉄工所の工員さんたちは、ゲタをはいてカランコロンと音をたてて通っていたんです。けれど、ゼネラルモータースの工員さんだけは、くつをはいていないと守衛さんが通さないんです。また、当時の給料は工員さんたちのほとんどが日給制、けれどゼネラルモータースは時間給。「あぁ、ハイカラやな」と、私らも子ども心に思ったことがありますわ。（生賀さん）

トヨタの工場が今の金光教泉尾教会のところに全部ありました。豊田自動織機の部門があったようです。（樋口さん）

積水化学は、千林橋（今はありません）をこえてまっすぐの、おきの橋のほうにむかった中ほどでね。今の北村公園の北側です。積水化学の発祥の地ですよ。ほんと、ここは。（原さん）

(5) 戦争と災害

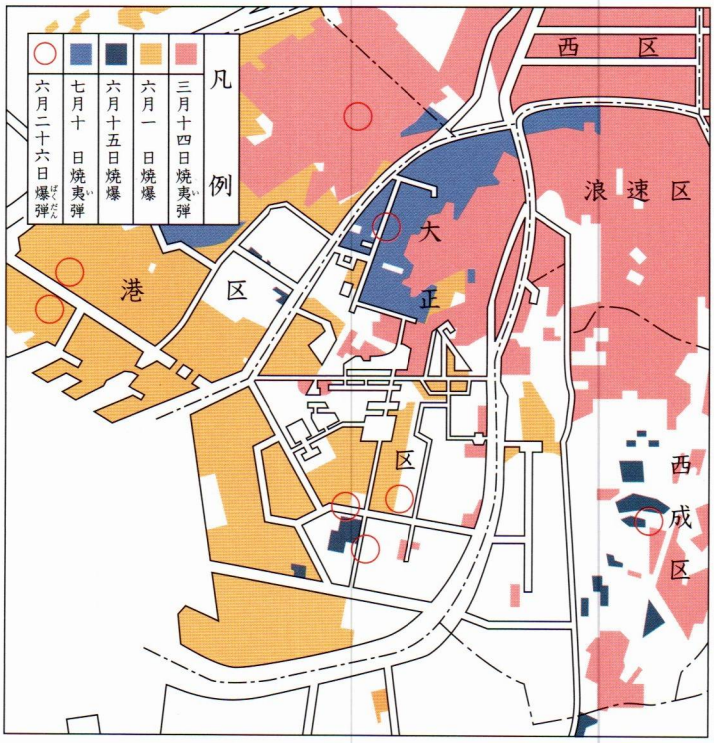
(5)－1　第二次世界大戦のころ

空襲

昭和14年（1939年）から昭和20年（1945年）に起こった第二次世界大戦で、大正区では昭和20年の3月13日と6月1日、15日に大空襲を受け、区の大半が焼けてなくなってしまいました。

3月の空襲では、三軒家東と難波島に被害が集中しました。6月1日には船町の西半分、鶴町、福町の全域、新千歳町、北恩加島などが大きな被害を受けました。6月15日には北恩加島から北泉尾に焼夷弾が投下されました。

被災した人はもちろん、疎開した人も多く、昭和19年1月には約10万5千人だった人口が、昭和20年8月15日の終戦時の人口は約1万人になっていました。それは被災して亡くなった人や、他府県へ疎開した人がいたからです。その年の10月には、疎開先などからもどった人も多く、約2万8千人になっていました。



大正区の大空襲の被害

「大正区の歴史を語る会」の人たちが語られた、戦争の様子です。

三軒家西では、北泉尾町２丁目（現、三軒家西３丁目）が一番焼けましたね。艀にのって尻無川にでた人も、亡くなられました。（振津さん）

３月13日から14日にかけてですか、大空襲がありましたわ。あの時分、今木町とか難波島町のところでね、ドラムかんに火がついて、大きな花火を打ち上げるぐらいボンボンと爆発していましたな。その後の６月のときはね、油脂焼夷弾ではなく、もっと小さい銀色に光った細身の焼夷弾でした。それが近所へ２、３発落ちたみたいですね。竹ざおの先になわをつけて、それを水につけてパッパッとはたいてね。（伊藤さん）

鶴町も６月に全部焼けてしまいました。私の会社にも直径１メートルくらいの穴ができる小型爆弾が３、４発落ちたと思いますけどね。焼夷弾と両方でもう大変でしたね。（川澄さん）

疎開

昭和19年（1944年）、大阪のまちでは空襲に備えて、貯水池がほられ、防空ごうがつくられました。また新防空法による疎開命令で、人と建物の疎開が始まりました。大正区でも取りこわされた家は多くありました。

集団疎開先の泉尾東国民学校の子どもたち（「大正区史」より）

また、区役所にできた疎開指導所では、疎開者一世帯に平均250円の移転奨励金が出されました。7月には、当時の国民学校の子どもたちに疎開がすすめられました。被害を受けないように、個別の疎開や集団疎開がありました。大正区内の子どもたちの集団疎開先は徳島県でした。その後、石川県にも疎開するようになりました。

子どもたちが大正区に帰ってきたのは、終戦後の昭和20年10月でした。

ものしりメモ

～疎開先の子どもたちの悲劇～

昭和20年1月29日夜9時半ごろ、徳島県の真光寺本堂が火事になりました。そこには南恩加島国民学校の3年生男子29名が学童集団疎開でとまっていました。子どもたちのうち、13名は助かりましたが、16名は焼死しました。

翌年、徳島県の人々によって高さ約1.5メートルのお地蔵さん「十六地蔵」がつくられ、以後、毎年地元の人たちの手によって法要が営まれています。

つるぎ町貞光の真光寺にある十六地蔵を訪ねた南恩加島小学校の6年生。

南恩加島小学校では16人の命日に合わせて児童たちが千羽鶴を折り、寺に届けていました。平成14年には校内に記念碑を建てました。毎年1月29日には式典をしています。

平成18年6月には6年生の修学旅行として真光寺を訪ねました。

(5)－2　台風の被害

水にかこまれた私たちのまちは、みんなで力を合わせて風水害にもたちむかってきました。

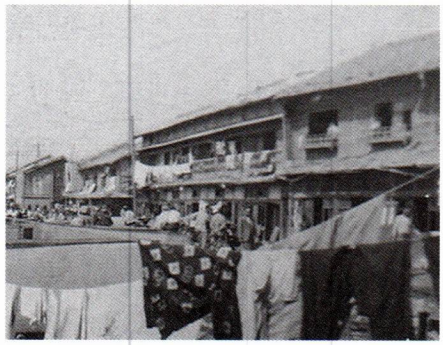
室戸台風

昭和９年（1934年）９月21日、最大しゅん間風速60メートル以上の大型台風の室戸台風が西神戸に上陸しました。大阪市内では強風で四天王寺の五重塔がたおれるなど、大きな被害を受けました。

大正区ではほとんどの場所が浸水しました。死者は行方不明者をふくめ119人、家や建物の被害は22,535戸でした。

また、貯木場からおし流された大きな丸太による被害も多く、陸に打ち上げられた丸太が、道路をふさいだり、建物をたおしたりしました。

↑鶴町にあった映画館の被害の様子。風で電柱がかたむき、かべがふき飛ばされています。
（「懐かしい大正区の風景」より）



↑台風で浸水した南恩加島町。浸水でよごれた衣服を干すなど、片づけの様子が見えます。
（「懐かしい大正区の風景」より）

↑多くの艀が尻無川の泉尾付近に打ち上げられました。
（「懐かしい大正区の風景」より）

「大正区の歴史を語る会」の人たちが語られた、室戸台風の様子です。

バァーッと水がでてきていっぱいになり、家族そろって大正橋までにげて行きました。家は１階が水につかってしまっていたので、２階で何日間も過ごしました。（鴨宮さん）

大正通はほとんど水につかっていました。市電の通っていた現在の大浪通ではレールの部分が高く足首まで、泉尾中通の商店街では腰くらいまでつかっていました。私の家の２階からは尻無川の堤防の上に押し上げられた木造船が横たおしで並んでいたのが見えました。（平塚さん）

〈ことばのいみ〉
浸水って!?
水が入りこむこと。
ものが水につかること。

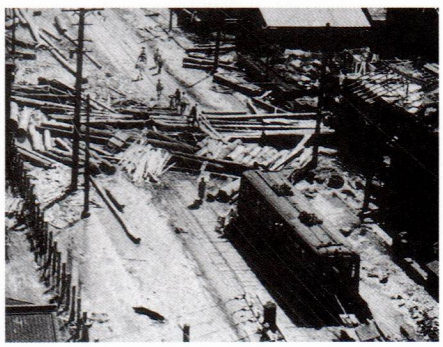
ジェーン台風

昭和25年（1950年）9月3日午後1時ごろ、最大しゅん間風速44.7メートルの台風が神戸に上陸しました。戦後の復興に向けてまちづくりが行われていた大阪をおそいました。高潮と地盤ちん下が重なり、川の水があふれ、町中が浸水しました。浸水の被害としては、室戸台風を上回りました。

大正区の83パーセントがおよそ1.9メートルの高さまで浸水しました。死者は行方不明者をふくめ13人、被害をうけた家や建物は1万654戸でした。

電車や人々のこしまで、水につかっています。前の方に見えているのは大正橋です。（「懐かしい大正区の風景」より）

2メートル以上の浸水の被害があった大正橋のあたり。浸水のときに使われていたボートや、建物がくずれた後の木が流されているのがわかります。（「懐かしい大正区の風景」より）



台風が過ぎた小林町の様子。貯木場から流された木が道路をふさぎました。（「懐かしい大正区の風景」より）

高潮対策と土地区画整理

大阪市は、室戸台風後に造られた堤防に加えて、ジェーン台風以降、高潮対策事業にとりかかり、昭和34年（1959年）に一応の完成を見ました。その後も防潮堤などの整備が進められ、現在、防潮堤の長さは約25キロメートルあり、高さも南海地震などの津波にたえられるものになっています。また、昭和43年（1968年）に三軒家水門が、昭和45年には木津川防潮水門や尻無川防潮水門が完成し、さらに防潮能力が高まりました。

また、区域内で土地区画整理事業にともなう大規模な盛土事業が行われた結果、地盤がかさ上げされ、大正区は災害に強いまちとなりました。

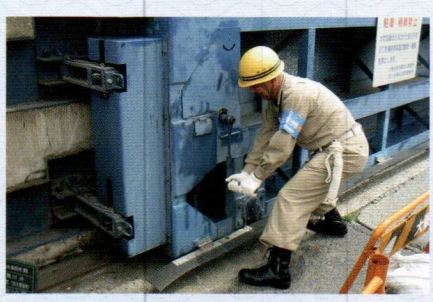
知っていましたか?

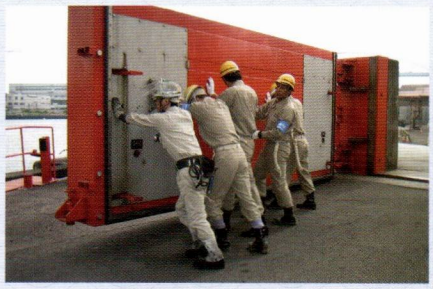
設立から60年　家族を守る　地域を守る「大正区水防団」

大正区は台風によって、水害のこわさをみせつけられましたが、現在では防潮堤のかさ上げや、水門や鉄扉の整備が進み、水害にも安心なまちになりました。

水防団は防潮堤の確認や鉄扉の閉鎖に重要な役割を果すため、昭和21年（1946年）に大正区水害警防団としてつくられ、その後大正区水防団となりました。

区民のいのちと財産を守り、水害や高潮による被害がでないよう、大きな役目を果たしてくれている水防団は6分団あり、団員は現在467名。大正区のまちや財産を守るために、若い人への参加も呼びかけています。





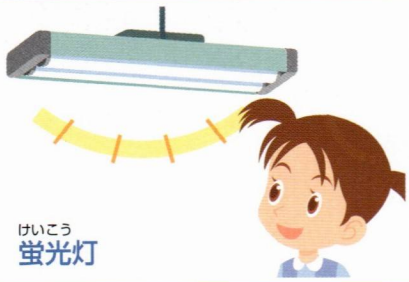
水防団の水防訓練風景

2 くらしの移り変わり

(1) 人々のくらしの移り変わり

おじいさんやおばあさんが子どものころのくらしと、おかあさんやおとうさんが子どものころのくらし、そして、今のくらしのちがいを比べてみましょう。

知っている道具はありますか。

	第２次世界大戦後	昭和中ごろ	現　在
洗濯	洗濯板とたらい	ローラー式洗濯機	全自動洗濯機
水	井戸水（ポンプ）	井戸水／水道	水道
あかり	白熱電球	 蛍光灯	蛍光灯（シーリングライト）
火	炭（しちりん）	プロパンガス（コンロ）	都市ガス／電気 IHクッキングヒーター
暖房器具	火ばち	石油ストーブ	エアコン

学校の様子も変わっています。みんなが使っている教科書や、毎日食べている給食、そして学校のつくえの移り変わりをみて、今とむかしのちがいを比べてみましょう。

小学校の呼び方

尋常小学校

明治〜昭和戦前期の小学校。はじめは４年生までしたが、明治40年（1907年）に６年生まで学校へ行くことになりました。

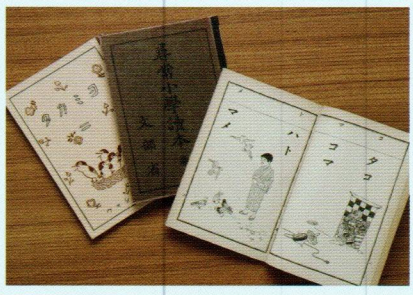
国民学校

昭和16年（1941年）から戦争の期間中に使われた呼び名です。今の小学校・中学校の一部にあたり、国民学校初等科、国民学校高等科がありました。

小学校

昭和22年（1947年）から、小学校と呼ばれるようになりました。学校教育法によって義務になっています。

むかしの教科書



左が国民学校、中央と右が尋常小学校の教科書。今と比べてみましょう。

給食の移り変わり

昭和25年（1950年）、大阪市内の全小学校で始まりました。

昭和56年（1981年）、米飯給食が始まりました。

卒業祝い献立てもできました。

学校のつくえの移り変わり

戦後のつくえ

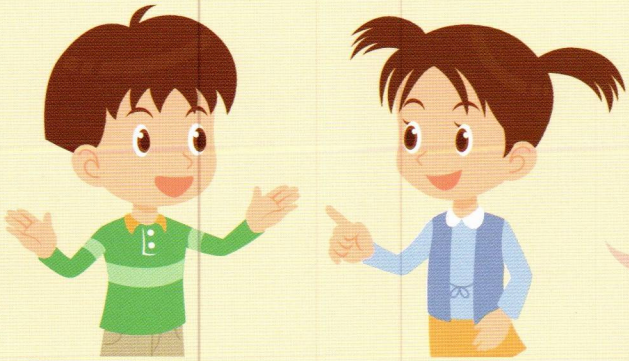
昭和の中ごろのつくえ

今のつくえ

調べてみよう

昔のくらしの道具と今のくらしの道具を比べて、便利になったり、使いやすくなったりしたところを話し合ってみましょう。

井戸から水をくむのは力がいるね。今はだれでもかんたんに水を使うことができるね。

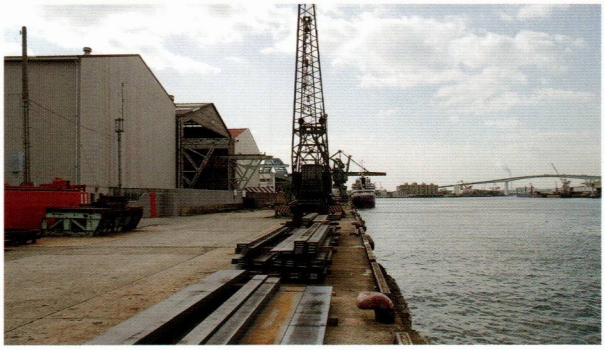


キャンプでかまどを使ってご飯を炊いたことがあります。火の使い方がむずかしかったわ。

(2) まちなみの様子の移り変わり

戦争や水害、港づくりなどで、大正区のまちの様子は変わってきました。今とのちがいを比べてみましょう。

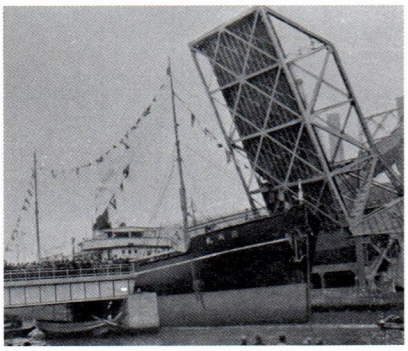
↑ 萬歳(まんざい)橋



↑ 今の北恩加島(きたおかじま)の岸べきあたりにありました。

↑ 嘉平次(かへいじ)橋

↑ 今は大正内港になりました。

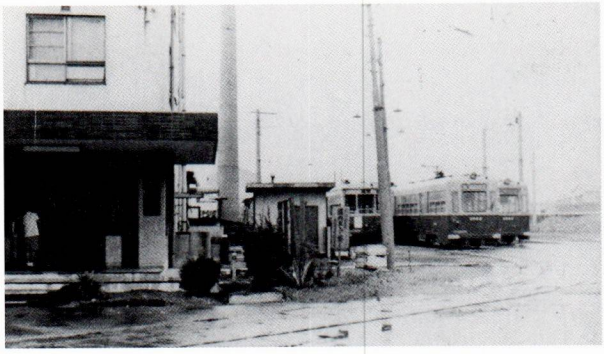


↑ 大船橋

↑ 今の大船橋です。

↑ 千林(せんりん)橋通

↑ 今の千島交差点あたりです。



市電の車庫

今の鶴町南公園あたりです。

大正通

今の大正通

大正橋

今の大正橋。アーチがなくなっています。

ものしりメモ

昭和山 昭和44年（1969年）9月の「千島計画」で、もと大正運河や貯木場のあった千島町一帯に「港の見える丘」を造るという大規模な計画により誕生した人工の山です。地下鉄工事の残土など、ダンプカー57万台（約170万立方メートル）の土砂を積み上げて造られ、標高33メートルの高さになり「昭和山」と命名されました。

名勝　千本松 「千本松大橋」や「千本松渡」の「千本松」の名前は、江戸時代につけられました。このころの木津川には北陸地方と大阪を結ぶ「北前船」が行き来していました。このあたりの川底には土や砂がたまりやすく、何度も川底をさらって、川を深くしたり広くしたりしました。

その中で「石塘」と呼ばれる堤防ができた後、そこには松の木がたくさん植えられ、風景も美しく、見晴らしもよい松林ができました。これが「千本松」の名前のはじまりです。

(3) 大正区の小学校の移り変わり

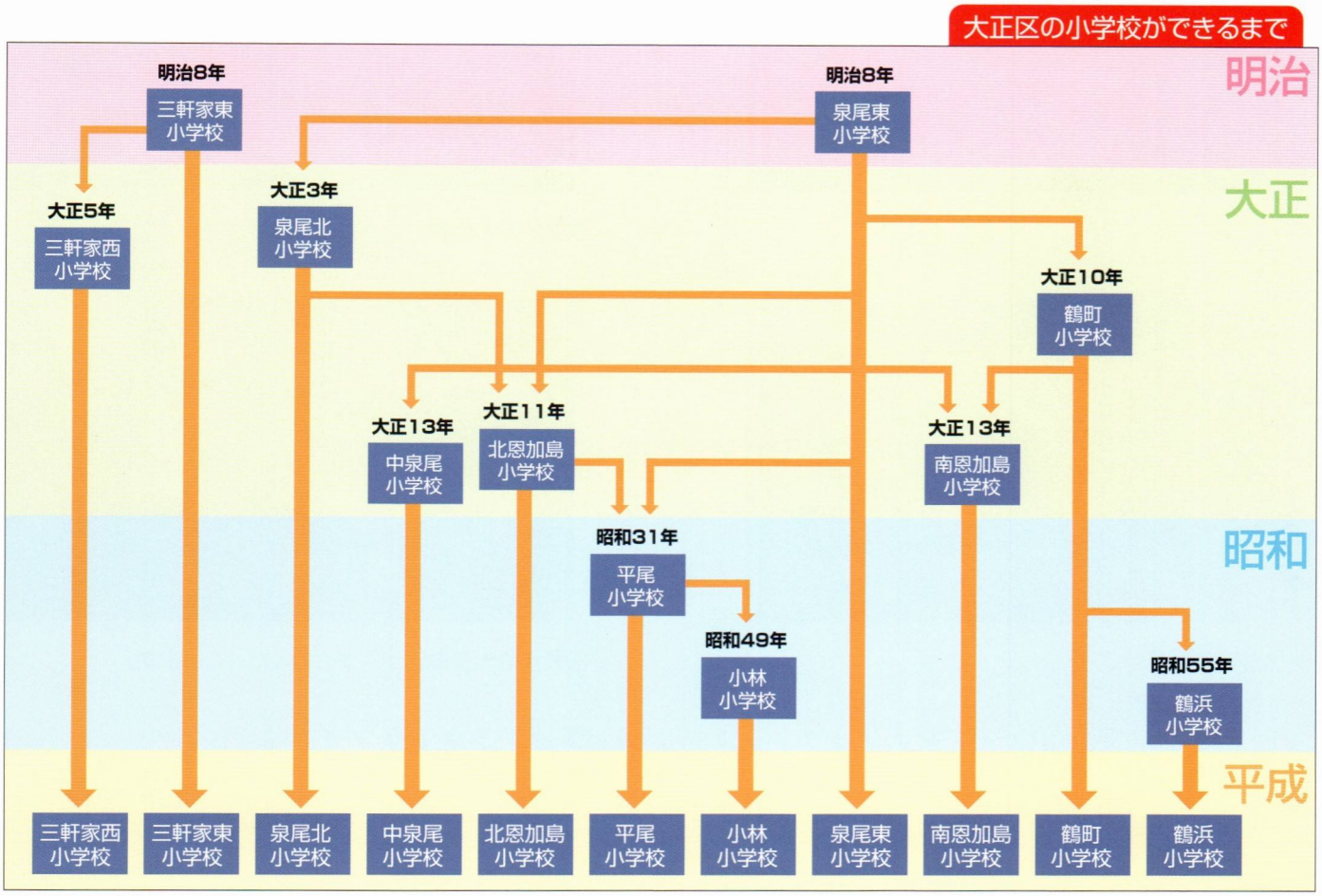
大正区でいちばん早くできた小学校は、泉尾東小学校と三軒家東小学校です。

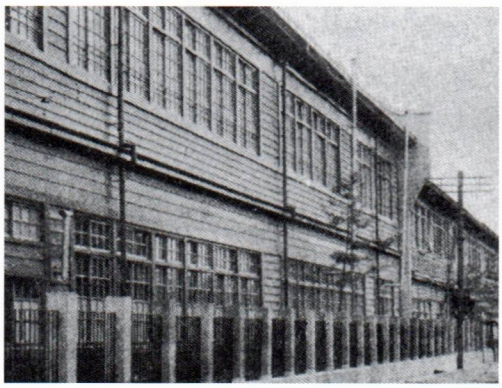
泉尾東小学校は寺子屋として、明治８年（1875年）４月に開校し、三軒家東小学校は大阪で61番目の小学校として明治８年７月に開校しました。その後、学校の制度や学校区が変わったので、つぎつぎと小学校が開校し、今は11校の小学校があります。

あなたの小学校はいつ開校しましたか。

ものしりメモ

寺子屋って!?
江戸時代にできた庶民の教育機関。先生の自宅などで、読み書きそろばんを習いました。





↑ 大正時代の泉尾東小学校

↑ 大正時代の三軒家西小学校

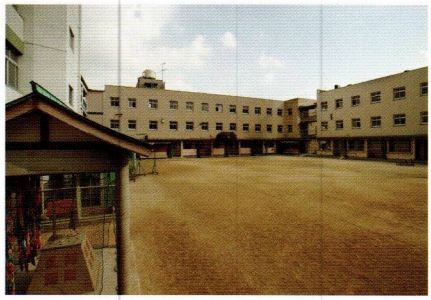
戦前には三軒家南小学校、大正小学校、新千歳小学校、港南小学校がありました。

三軒家西小学校（三軒家西1－20－26）

泉尾東小学校（千島1－16－16）

中泉尾小学校（泉尾3－23－34）

北恩加島小学校（泉尾5－17－31）



南恩加島小学校（南恩加島3－6－11）

鶴町小学校（鶴町2－6－24）

泉尾北小学校（泉尾2－21－24）

平尾小学校（平尾2－21－28）

三軒家東小学校（三軒家東2－12－63）

小林小学校（小林東2－4－45）

鶴浜小学校（鶴町2－20－26）

大正東中学校
（三軒家東4－4－30）

大正中央中学校
（小林東3－23－5）

大正西中学校
（南恩加島6－14－37）

大正北中学校
（北村3－1－1）

3 これからの大正区のまちづくり

(1) ゆめのあるまちづくり

大正区では「みんなが安心して暮らせるまち」、「健康で豊かに生きがいのある生活を楽しめるまち」、「活力のあるまち」を目標にして、まちづくりをすすめています。

そのキャッチフレーズは

夢のせて　ちょっと目をひく　大正区

「ちょっと」には、「…ほかにない」、「…した評判」というように「多い・大きく・大変に・非常に」などの意味と願いがこめられ、未来に向けた『夢』あるまちづくりを目指し、これからも大正区は「ひとはときめき」、「まちははなやぎ」、「未来はかがやき」ます。

戦後48年間かけた大正地区復興土地区画整理事業が平成6年におわり、「北村計画」では、住宅、医療（いりょう）・福祉（ふくし）、グリーン・スポーツしせつができ、21世紀にふさわしい都市になりました。平成13年の夏にうめ立てを終えた鶴浜沖埋立地（つるはまおきうめたてち）は、新しい文化を作りだす地域へとなっていく予定です。

(2) 楽しみあるまち

大正区には区民が楽しめるイベントがたくさんあります。参加したイベントはありますか。参加してみたいものはありますか。

大正区民デー

第2回は平成18年8月9日（水）に京セラドーム大阪（おおさか）で行われました。プロ野球の観戦や沖縄（おきなわ）のおどり「エイサー」などがありました。

大正区民まつり

大正区の一大イベントです。千島公園一帯の各地域で開かれます。
平成18年は10月15日（日）に開かれました。

大正区こども文化祭

大正区コミュニティセンター・ふん水広場で、工作教室や発表会、映画かん賞会などがあります。第21回は平成19年2月4日（日）でした。

大正区ファミリージョギング大会

北村南公園から千歳（ちとせ）橋を渡る、往復約3キロのコース。（スタートとゴールは北村南公園）第2回は平成19年2月11日（日）でした。

（3）もっと知りたい大正区

大正区では、区民のみなさんに、わたしたちのまち大正区をもっと知っていただくために、広報紙や地図、ホームページ、プロモーションビデオなどを作っています。

広報紙「こんにちは大正」

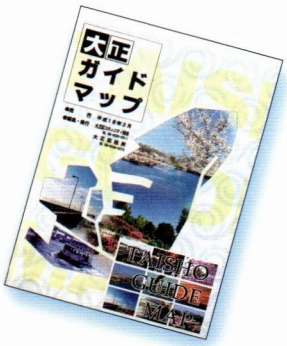
ホームページ

http://www.city.osaka.jp/taisho/

大正区プロモーションビデオ

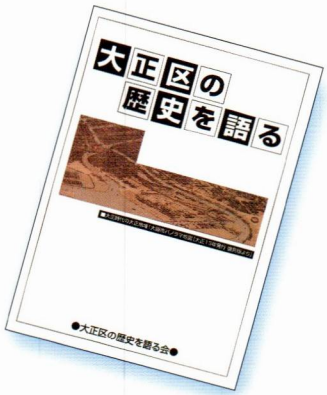
http://www.city.osaka.jp/taisho/outline/video.html

大正ガイドマップ



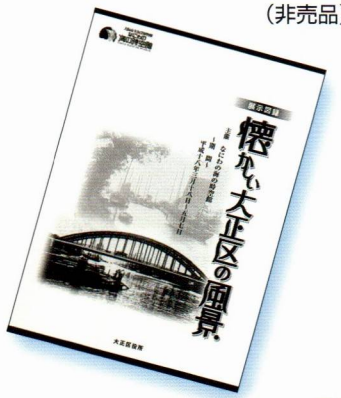
大正ガイドブック

大正区の歴史を語る

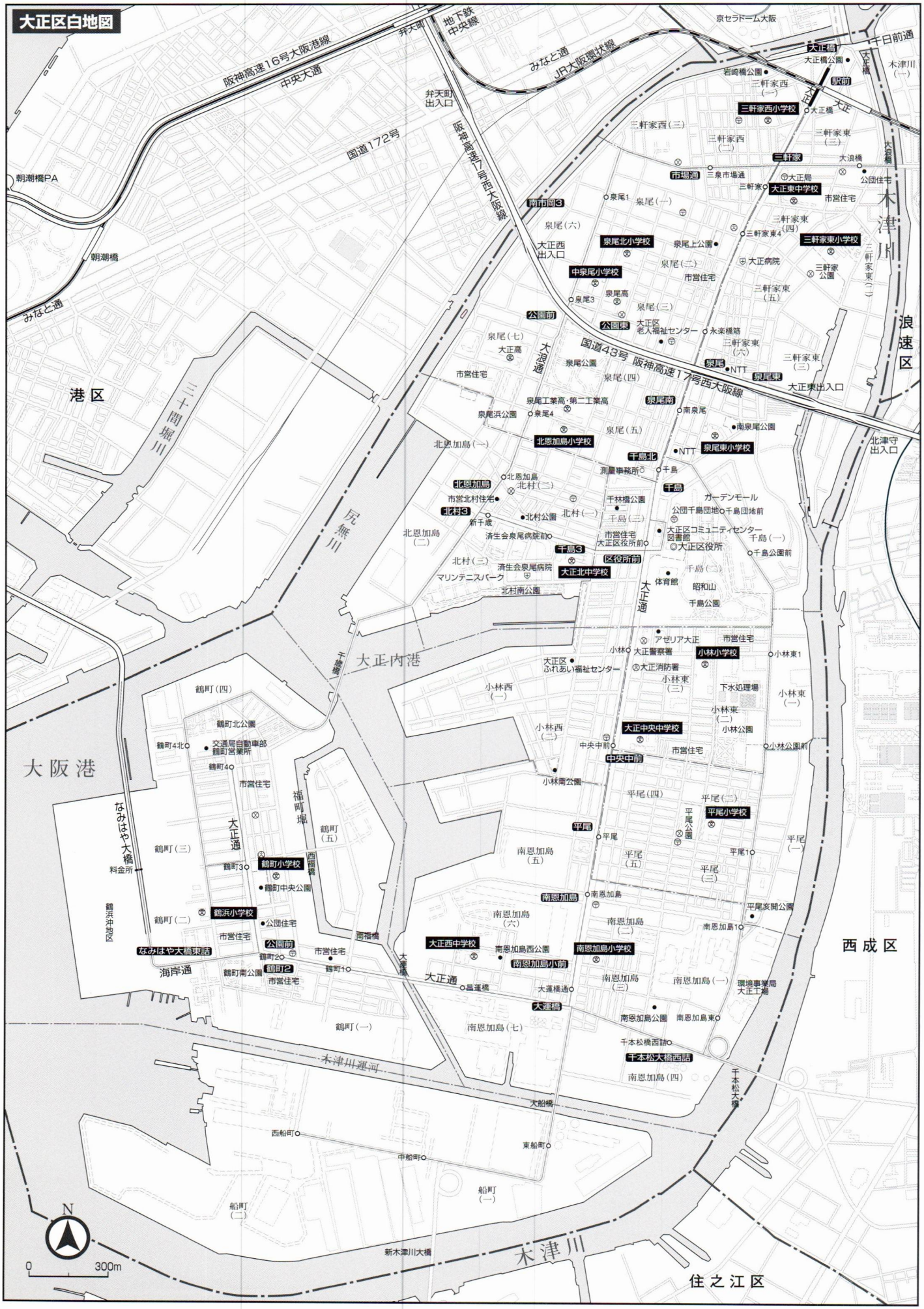


懐（なつ）かしい大正区の風景

（非売品）



大正区カラー地図
港区
大阪港
大正内港
西成区
住之江区
浪速区
木津川
尻無川
三十間堀川
木津川運河
阪神高速16号大阪港線
中央大通
国道172号
阪神高速17号西大阪線
国道43号
JR大阪環状線
地下鉄中央線
みなと通
朝潮橋
朝潮橋PA
弁天町
弁天町出入口
京セラドーム大阪
千日前通
大正橋
大正橋公園
岩崎橋公園
三軒家西小学校
三軒家東小学校
大正東中学校
三軒家
市場通
三泉市場通
大正局
公団住宅
市営住宅
南市岡3
泉尾北小学校
中泉尾小学校
泉尾上公園
大正病院
大正西出入口
公園前
公園東
大正区老人福祉センター
永楽橋前
泉尾
NTT
泉尾東
大正東出入口
泉尾公園
泉尾高
大正高
泉尾工業高・第二工業高
泉尾浜公園
泉尾南
南泉尾
南泉尾公園
北恩加島小学校
泉尾東小学校
北恩加島
北村3
北村公園
千島北
測量事務所
千島
千林橋公園
ガーデンモール
公団千島団地
千島団地前
大正区コミュニティセンター
図書館
大正区役所
大正区役所前
区役所前
千島3
大正北中学校
済生会泉尾病院前
済生会泉尾病院
マリンテニスパーク
北村南公園
体育館
昭和山
千島公園
千島公園前
大正通
アゼリア大正
大正警察署
大正消防署
大正区ふれあい福祉センター
小林小学校
小林東1
下水処理場
小林公園
小林公園前
大正中央中学校
中央中前
小林南公園
平尾小学校
平尾公園
平尾支開公園
南恩加島小学校
南恩加島小前
南恩加島西公園
大正西中学校
南恩加島公園
南恩加島東
環境事業局大正工場
千本松大橋西詰
千本松大橋
大運橋
大運橋通
昌運橋
大船橋
新木津川大橋
西船町
中船町
東船町
船町
鶴町北公園
鶴町4北
交通局自動車部鶴町営業所
鶴町4
鶴町小学校
鶴町中央公園
鶴浜小学校
公団住宅
公園前
鶴町2
鶴町南公園
鶴町1
なみはや大橋
なみはや大橋東詰
料金所
海岸通
鶴浜中地区
福町堀
西福橋
南福橋
千鶴橋
N
0
300m


大正区白地図
京セラドーム大阪
阪神高速16号大阪港線
中央大通
弁天町
地下鉄中央線
みなと通
JR大阪環状線
弁天町出入口
国道172号
阪神高速7号西大阪線
朝潮橋PA
朝潮橋
みなと通
大正橋
大正橋公園
千日前通
木津川(一)
岩崎橋公園
三軒家西(一)
駅前
大正
三軒家西小学校
三軒家西(三)
三軒家西(二)
三軒家東(三)
三軒家
大浪橋
市場通
三泉市場通
大正局
公団住宅
三軒家
大正東中学校
市営住宅
南市岡3
泉尾1
泉尾(一)
泉尾(六)
三軒家東(四)
三軒家東4
三軒家東小学校
大正西出入口
泉尾北小学校
泉尾上公園
大正病院
三軒家公園
中泉尾小学校
泉尾(二)
市営住宅
三軒家東(五)
泉尾3
泉尾高
泉尾(三)
公園前
公園東
大正区老人福祉センター
永楽橋筋
泉尾(七)
大正高
大浪通
国道43号
阪神高速17号西大阪線
泉尾公園
三軒家東(六)
泉尾
NTT
泉尾東
三軒家東(三)
市営住宅
泉尾(四)
大正東出入口
泉尾工業高・第二工業高
泉尾南
泉尾浜公園
泉尾4
南泉尾
南泉尾公園
泉尾(五)
北恩加島(一)
北恩加島小学校
泉尾東小学校
NTT
千島北
測量事務所
千島
北恩加島
北恩加島
北村(二)
市営北村住宅
北村3
新千歳
北村公園
北村(一)
千林橋公園
ガーデンモール
公団千島団地
千島団地前
千島(三)
北恩加島(二)
済生会泉尾病院前
市営住宅
大正区コミュニティセンター
図書館
大正区役所前
大正区役所
千島(一)
千島3
区役所前
千島公園前
北村(三)
済生会泉尾病院
大正北中学校
マリンテニスパーク
体育館
千島(二)
昭和山
北村南公園
千島公園
大正通
尻無川
港区
三十間堀川
大正内港
千歳橋
アゼリア大正
市営住宅
小林
大正警察署
小林小学校
小林東1
大正区ふれあい福祉センター
大正消防署
小林東(三)
下水処理場
小林西(一)
小林東(一)
小林東(二)
小林公園
小林西(二)
大正中央中学校
中央中前
市営住宅
小林公園前
中央中前
小林南公園
鶴町(四)
鶴町北公園
鶴町4北
交通局自動車部鶴町営業所
鶴町4
市営住宅
大阪港
平尾(四)
平尾(二)
平尾小学校
平尾公園
平尾
平尾
平尾(一)
平尾1
平尾(五)
平尾(三)
なみはや大橋
料金所
大正通
福町堀
西福橋
鶴町(五)
鶴町(三)
鶴町3
鶴町小学校
鶴町中央公園
南恩加島(五)
南恩加島
南恩加島
平尾亥開公園
鶴浜弁地区
鶴浜小学校
鶴町(二)
公団住宅
市営住宅
南恩加島(六)
南恩加島(二)
南恩加島1
南福橋
なみはや大橋東詰
公園前
市営住宅
大正西中学校
南恩加島西公園
南恩加島小学校
南恩加島小前
西成区
海岸通
鶴町2
鶴町南公園
鶴町2
市営住宅
鶴町1
大正通
昌運橋
大運橋通
南恩加島(三)
南恩加島(一)
環境事業局大正工場
大運橋
南恩加島公園
南恩加島東
鶴町(一)
南恩加島(七)
千本松橋西詰
千本松大橋西詰
木津川運河
南恩加島(四)
千本松大橋
大船橋
西船町
東船町
中船町
船町(一)
船町(二)
N
0
300m
新木津川大橋
木津川
住之江区
木津川
浪速区
三軒家東(二)

大正区年表

年号	年	西暦	大正区のできごと	メ　モ
天　正	4	1576	毛利水軍、織田軍の兵船を木津川口で破り、石山本願寺内に兵糧を運ぶ	
	6	1578	織田方・九鬼水軍の安宅船が大坂を海上封鎖し、毛利水軍を木津川沖で撃破	
慶　長	15	1610	中村勘助、木津川尻の姫島に豊臣家の軍船係船所を建設、堤防を築いて田畑を開発。豊臣家より「勘助島」の名が与えられる（現在の三軒家）	
	19	1614	三軒家、大坂防御軍守衛地となる	
元　和	元	1615	松平忠明によって神明社（日中の神明社）が京都西院より中央区内平野町へ遷座される	
寛　永	2	1625	下の八阪神社勧請	
	5	1628	三軒屋に真宗大谷派の専称寺建立	
	7	1630	中村勘助、木津川を浚渫。幕府より入津料・白米5合の収得を許される	
正　保	4	1647	勘助、上の八坂神社勧請	
明　暦	3	1657	川口三軒屋の遊廓禁止。新町遊廓に纏め	
万　治	2	1659	本願寺派万福寺を専称寺の北側に建立	
寛　文	5	1665	大坂船手2員制 大番組頭・高林直重、勘助島に居住。船番所は勘助島にあり（～1683年まで）	
	12	1672	呑海寺建立	
延　宝	3	1675	この年発行の『芦分船』によれば三軒屋は「次第に人家が満ち満ち軒を並べて繁栄して、旅泊の船出入り繁く」とある	
貞　享	元	1684	大川改修で天満の替地を三軒屋に設定。舟津町・川本町・臼井町として大坂三郷に編入	
元　禄	12	1699	河村瑞賢、難波島を開削工事。木津川の水流を改良し、西側を難波島・東側を月正島と称す 泉尾神社創建 泉国踞尾村・北村六右衛門、泉尾新田を開発	
	15	1702	泉尾新田検地 開発に伴う慰霊のため、了照寺建立	
宝　永	4	1707	泉尾新田堤防決壊	
	5	1708	安治川・木津川の川口浚え（沖浚え）実施 木津川に遠見番所設置。お船蔵は元禄年間、既に番所の西にあり	
享　保	2	1717	木津川・大和川の浚渫決定	
	15	1730	安治川・木津川の川口浚え	
宝　歴	13	1763	炭屋三郎兵衛、炭屋新田を開発	
	14	1764	第11回朝鮮通信使、尻無川遡上	
明　和	5	1768	岡島嘉平次、数回に渡り千島新田を開発	
	8	1771	平尾与左衛門、平尾新田を開発	
安　永	3	1774	川口で多数の船転覆。1200人余水死	
天　明	元	1781	両川口の川浚え実施	
文　政	12	1829	岡島嘉平次、南恩加島新田を開発	
天　保	2	1831	岡島嘉平次、北恩加島新田を開発	
	3	1832	岡島嘉平次、小林・岡田新田を開発 舟運のため、木津川口に870間の石堤を築き、松を植える（千本松） 木津川口お救い大浚え 産土神社（在:小林）創建	
	7	1836	天満宮（在:南恩加島）創建	
弘　化	2	1845	岡島嘉平次ら、千歳新田を開発	
安　政	元	1854	道頓堀・木津川の被害甚大 大正橋東詰に『大地震両川口津波記』の石碑建立 木津川口は40艘余の番船、木津川沿岸には紀州兵など2600人で警戒	
	3	1856	幕府、大坂城代・土屋寅直に安治川口・木津川口への台場建設を指示	
	4	1857	幕府、高松藩に木津川口台場の警備命令	
文　久	3	1863	土佐山内藩が木津川口を、美濃苗木藩が木津川船手番所を警備	
明　治	5	1872	当区は西成郡第2区、北部は2番組・南部は4番組となる	
	8	1875	泉尾小学校・三軒家小学校開校	
	11	1878	尻無川下流に遊泳場を設置。小学生水泳訓練。	
	14	1881	大阪府、三軒家に倉庫10棟を持つ「船囲い場」（178000㎡）を開設	
	16	1883	渋沢栄一らが三軒家に大阪紡績（後の東洋紡績）開業、『東洋のマンチェスター』の基礎を作る	
	18	1885	藤永田造船所が千島に開業。以後、木津川を中心に工場が続々と開業（栗木鉄工所etc...）	

年号	年	西暦	大正区のできごと	メ　モ
	22	1889	当地は三軒家村と川南村の一部となる 曽根崎警察署三軒家分署設置	
	30	1897	大阪市編入。西区に属する 鶴町・福町（明治38～大正3）、船町（明治38～大正15）を中心に埋立（247万㎡）	
	33	1900	三軒家は2町、他はほぼ新田名どおり設定	
	36	1903	泉尾土地設立（北村銀行破産による）	
	42	1909	大火の罹災市民延べ22000人、南恩加島の施設に収容	
	44	1911	西大阪最初の問屋市場「三泉市場」開設	
	45	1912	千島土地設立	
大　正	2	1913	小林斎場開設	
	3	1914	大戦ドイツ捕虜760名、大阪俘虜収容所（北の大火と同一施設）に収容（大正6年広島へ移動） 木津川焼却場開設 泉尾第2（北）小学校開校 千歳運河開削	
	4	1915	大正橋架橋 市電、岩崎橋⇔日吉間を開通 大阪製鉄開業	
	5	1916	三軒家第3（西）小学校開校 木津川運河開削	
	6	1917	八坂神社境内に中村勘助顕彰碑建立 久保田鉄工、恩加島に工場開設	
	7	1918	市電、大正橋⇔木津川運河間を開通 大阪木材土地（株）創立。西区の西道頓堀・西長堀などから木材業者集団移転し小林町・千島町一帯は西日本有数の木材市場となる	
	8	1919	大正運河開削開始（大正12年完成） 福町掘開削 鶴町に大阪市初の市営住宅建設 鶴町に託児所の設置 泉尾警察署発足 岩田土地設立 造船所、木津川筋32社・尻無川筋に16社群立	
	9	1920	岩崎運河開削と岩崎橋の架橋 市電、大運橋⇔鶴町4丁目間を開通	
	10	1921	泉尾高等女学校・鶴町小学校開校 泉尾振工会（工業会の前身）発足 鶴町公設市場開設	
	11	1922	北恩加島小学校・泉尾工業学校開校 泉尾公設市場開設 岩松橋架橋 市電、小林町⇔鶴町4丁目間を開通 南条病院（のちの大正病院）開設	
	12	1923	木津川尻埋立地に大阪木津川尻飛行場が開設。日本航空(川西系)の拠点空港として水上機の飛行場として発足。のち陸上機機能も併せもった 鶴町市電車庫開設 中山製鋼所、船町で開業	
	13	1924	南恩加島小学校・中泉尾小学校開校 神明神社、中央区より鶴町1丁目へ遷座	
	14	1925	西区から港区が分区（当区は港区に属す） 三軒家・泉尾地区の下水道管敷設完了	
昭　和	2	1927	市電・三軒家⇔新千歳間を開通 日本ゼネラルモータース社、鶴町1丁目に開業。昭和16年までに約8万台を生産	
	4	1929	船町に大阪飛行場(木津川)(約39万㎡)が、日本初の公共用空港として開設。日本航空輸送等が名古屋・東京・福岡・大連・上海等へ航空路線。年間発着回数8800回・年間旅客1万人(昭和13年)。14年伊丹飛行場へ陸上飛行場機能が移設され、水上機専用飛行場化 泉尾幼稚園開設 日本ゼネラルモータースで労働争議	
	5	1930	区内初の市バス、野田阪神⇔鶴町間の運行開始	
	7	1932	港区から分区し、大正区が成立（15区制） 大正区歯科医師会・薬剤師会の創設	
	9	1934	最大風速48㍍。区内全域冠水、死者119人・被災者12万3千人（室戸台風） 北恩加島小学校で校舎倒壊、9人死亡 大正消防署、小林に新設 大阪飛行場（木津川）で煙霧による飛行機墜落事故発生	

大正区年表

年号	年	西暦	大正区のできごと	メ　モ
昭　和	10	1935	工業生産高が機械・金属工業を中心に市内2位へ（従事者22000人）	
	11	1936	可動橋の大船橋を架設	
	12	1937	大浪橋架設	
	13	1938	大正区12連合、134町会	
	14	1939	中山製鋼所新溶鉱炉完成 【大正区人口15万2000人】	
	15	1940	木津川・尻無川の防潮堤完工	
	16	1941	東洋紡績軍需工場転換 （財）大井積善会設立	
	18	1943	泉尾警察署を大正警察署と改称 大正保健所業務開始	
	19	1944	市電、小林町⇔新千歳間運転を休止	
	20	1945	南恩加島小学校児童、疎開先の徳島県で16名焼死（十六地蔵） 大阪大空襲（3/13、6/1、6/15）で区の大半焼失。被災者約55000人 8月【大正区約1万人】 10月【大正区27637人】	
	21	1946	大正区復興委員会結成 大正区選挙管理委員会設立 区商店会連盟結成 大正区水防団結成 （財）皓養社設立	
	22	1947	新制中学校（大正東・大正中央）発足 三軒家西幼稚園設立 遺族会大正区支部結成 大正区医師会発足 大正防犯協会結成 大阪港復興計画で大正内港化決定 区画整理事業『難波島工区設計』認可（昭和36年、換地処分広告）	
	23	1948	大正区防火協力会結成 男女共学により、女子高・泉尾高校が男子高・今宮高校と交流 大正区民生委員協議会設立 体育厚生協会・大正区支部設置	
	24	1949	大正区日赤奉仕団発足 大正交通安全協会発足 大正区PTA協議会発足	
	25	1950	台風被害・区域の83%が浸水。被災者57000人（人口の96%）（ジェーン台風） 西大阪総合高潮対策事業着手（昭和30年完成） 港湾地帯整備事業の大正地区南部工区設計認可（平成6年度、換地処分公告） 大正橋公園・泉尾公園開園 泉尾球場開設 【大正区人口59784人】	
	26	1951	区画整理事業三軒家工区設計認可（昭和62年度、換地処分公告） 済生会泉尾病院開設 大正区社会福祉協議会結成 大正区女性団体協議会結成 区内最初の老人クラブ「千島鶴亀会」発足 大正区「母と子の共励会」発足 社団法人大正工業会設立	
	27	1952	尻無川、境川運河以北埋め立て 区保護司会発足 傷痍軍人会大正区支部発足	
	28	1953	区福祉事務所発足 鶴町中央公園開設	
	29	1954	市バス、船町⇔大阪駅前間を運行 市電・鶴町車庫、盛り土のため閉鎖	
	30	1955	カーフエリー、船町⇔平林間運行を開始（～48年まで） 【大正区人口78012人】	
	31	1956	平尾小学校開校 大正区更生保護女性会結成	
	32	1957	大正区市場連合会結成 大正区老人会連合会結成 市バス、西船町⇔あべの橋間を運行 大正西中学校開校 大正工業会若葉会創設	
	33	1958	三軒家川、紡績大橋まで埋立	

年号	年	西暦	大正区のできごと	メ　モ
昭　和			淀川左岸事務組合発足 三軒家球場開設 青少年指導員連絡協議会創設	
	34	1959	三軒家防潮水門完成 南恩加島抽水所完成 鶴町・福町、盛土完成	
	35	1960	大正区子供会連合協議会結成 三軒家公園に「近代紡績工業発祥の地」石碑設置 大正産業会館完成 【大正区人口93377人】	
	36	1961	国鉄大正駅開設 国鉄・天王寺⇔西九条間、環状線開通 台風のため鶴町・福町全域冠水。その後防潮堤嵩上げ実施（第二室戸台風）	
	37	1962	水道局、大正サービスステーション開設 大阪大正ライオンズクラブ創設	
	38	1963	区制30周年記念祝賀会 大正公害防止会発足 大正区ふたば会設立 千島下水処理場完成	
	39	1964	大阪環状線一周運転開始 大正区緑化推進本部発足 大正消防署改築	
	40	1965	大阪臨港地区指定 鋼材埠頭、供用開始 鶴町南公園開園 【大正区人口95509人】	
	41	1966	工業用水道給水開始 水道大正幹線敷設 大正第1突堤、供用開始。大阪海運事業協同組合が運営	
	42	1967	大正区内市電廃止 交通局鶴町営業所発足 南恩加島公園開設	
	43	1968	鶴町北公園開園 大正運河埋立開始（45年終了）	
	44	1969	千島計画発表	
	45	1970	国道43号線、阪神高速・西大阪線開通 木津川・尻無川両防潮水門完成 千島公園植樹式 小林公園開園 小林改良地区指定（53年に住宅完成） 大正地区BBS会結成 【大正区人口88954人】	
	46	1971	区内初の老人憩いの家、鶴町福祉会館完成	
	47	1972	区内木材業者の住之江移転完了 大正区合同庁舎完成 大正区食生活改善推進協議会設立 身体障害者団体協議会設立	
	48	1973	千本松大橋完成	
	49	1974	小林小学校開校 千島体育館開設 市バス、急行運行開始	
	50	1975	第1回区民まつり 大正区地域振興会発足 大正内港化による拡幅・浚渫工事完了 鶴町社協「老人食事サービス」「友愛訪問活動」の事業開始 【大正区人口88485人】	
	51	1976	千島公園開園 千島計画完了 老人福祉センター・勤労青少年ホーム開設 大正区住居表示実施	
	52	1977	大正区政協力会結成	
	53	1978	大正高校・大正北中学校開校 人権啓発推進協議会発足 体育指導委員協議会創設	
	54	1979	大正通の拡幅完了 千島公園と泉尾公園を結ぶ緑陰道完成	
	55	1980	鶴浜小学校開校 小林斎場改築完成 環境事業局新大正工場完成 【大正区人口84041人】製造品出荷額市内7位	

大正区年表

年号	年	西暦	大正区のできごと	メ　モ
昭　和	56	1981	花と緑のまちづくり推進委員会創設	
	57	1982	大正区制施行50周年記念式典	
			難波島渡し廃止	
			平尾公園開園	
	58	1983	「昭和山コーポ」地鎮祭	
			泉尾連合商店街アーケード完成	
	60	1985	大正区まちづくり計画推進会議発足	
			(財)大正区コミュニティ協会設立	
			【大正区人口82330人】	
	61	1986	北恩加島工業団地竣工	
	62	1987	大正区の花を「つつじ」と制定	
			特別養護老人ホーム「大正園」竣工	
	63	1988	新バスシステム運行開始	
			寝たきり予防推進協議会発足	
平　成	元	1989	市制100周年区民フェスティバル開催	
	2	1990	鶴町福祉会館「子供の家」開所	
			【大正区人口81272人】	
	3	1991	地域ネットワーク委員会設立	
			マリンテニスパーク・北村オープン	
			大正区手をつなぐ親の会設立	
			大正警察署新庁舎落成	
	4	1992	大正区社会福祉協議会法人化	
			大正区ボランティアビューロー開所	
	5	1993	区役所全土曜日閉庁実施	
			大正消防署泉尾出張所開設	
	6	1994	新木津川大橋開通	
			平尾商店街アーケード完成	
	7	1995	なみはや大橋開通	
			大正区住宅サービスセンター（ふれあい福祉センター）開設	
			【大正区人口78372人】	
	8	1996	大正西地域サービスステーション開所	
			シルバークレイン開所	
			区民だより「こんにちは大正」創刊	
	9	1997	地下鉄長堀鶴見緑地線開通、大正駅開業	
			JR大正駅リニューアルオープン	
			大正やすらぎ会館開館	
	10	1998	青少年育成推進会議発足	
			新大正区民音頭発表	
	11	1999	アゼリア大正（文化交流プラザ）開館	
			平尾公園会館開館	
	12	2000	大正東地域サービスステーション開所	
			大正区生涯学習推進区民会議設立	
			【大正区人口75042人】	
	13	2001	（社福）大正区社会福祉協議会50周	
			大正区地域女性団体協議会50周年	
			千島ガーデンモール開設	
	14	2002	済生会泉尾第2病院開院	
			ふくろうの杜開設	
			第1回ふれあい生涯学習フェスティバル開催	
	15	2003	千歳橋開通	
	16	2004	大正ギャラリー設置(大正内港護岸壁)	
			第30回区民まつり開催	
	17	2005	「旧跡のいわれ・渡船場」のパネル設置	
			(財)大正区コミュニティ協会20周年	
			「大正区の歴史を語る会」開催	
			「大正区の歴史を語る」発行	
			【大正区人口73207人】	
	18	2006	第1回大正区ファミリージョギング大会開催	
			大正ドイツ友好記念史跡碑設置	
			大正区第九合唱団結成	
			大正区子どもの安全安心対策連絡協議会発足	
			大正区更生保護女性会50周年	

あとがき

この本の前半部分は、主に小学校３年生の社会科学習の副読本として、後半部分は小学校高学年だけでなく、中学生や大人のみなさんにも大正区の歴史をより一層深めていただきたいという思いをこめて、何度も検討を重ねて作成いたしました。まだまだ十分でないところもあると思いますが、この本が「大正区」を理解する資料として活用されることを望んでいます。

この本の作成にあたっては、大阪市小学校教育研究会大正支部の「社会科主任」の先生方が中心となってたずさわってくださいました。また、「大正区の歴史を語る会」をはじめとした区民の方々や、区内の企業、商店会のみなさん方など、たくさんの方々からもご協力をいただきました。この場をお借りしまして、心から厚くお礼を申しあげます。

大正区役所

写真・資料提供（敬称略・順不同）

三軒家西小学校
泉尾東小学校
中泉尾小学校
北恩加島小学校
南恩加島小学校
鶴町小学校
泉尾北小学校
平尾小学校
三軒家東小学校
小林小学校
鶴浜小学校
大正東中学校
大正中央中学校
大正西中学校
大正北中学校
大正区コミュニティ協会
大正区の歴史を語る会
社団法人大正工業会
大正区商店会連盟
大阪市立中央図書館
大阪市交通局
なにわの海の時空館
加賀市北前船の里資料館
産経新聞大阪本社
郷土出版社

大阪市小学校教育研究会大正支部
社会科主任の先生方（敬称略・順不同）

理事　大橋　直人（三軒家西小学校）
田中　裕之（三軒家西小学校）
大村　和子（泉尾東小学校）
木全　史典（中泉尾小学校）
田中八重子（北恩加島小学校）
白川　洋二（南恩加島小学校）
西山美智子（鶴町小学校）
花岡由美子（泉尾北小学校）
牧　　君子（平尾小学校）
塩崎　優美（平尾小学校）
関　　真理（三軒家東小学校）
森　奈央子（小林小学校）
松浦　倫子（鶴浜小学校）

「わたしたちのまち大正区」

■発　　行　平成19年4月1日
■編集・発行　大阪市大正区役所
■制作・印刷　株式会社アド・ポポロ

大　正　区

	小学校
年	組
なまえ	

正誤表

Ｐ１２　大正病院住所　南恩加島５－５－１６
↓
三軒家東５－５－１６

Ｐ２１　７行目
小林から平尾にまたがる　→　平尾地域を東西にのびる